



教訓 I

忘れないために

岡田 章

東日本震災から1年が経過した。ここで震災がわれわれの心に刻みつけた教訓を記しておくことは、意味があることであろう。

●100%の安全はあり得ない／確率的思考のすすめ

構造物の安全性・信頼性の分野で業績を上げている Ross B. Corotis 博士の言葉を紹介したい。設計というものとは確定的な考えではなく、確率論的な考えに基づくべきものである、という氏の理念を表したものである。

Structural engineering is the art of molding materials we do not really understand, into shapes we cannot really analyze, so as to withstand forces we cannot really access, in such a way that the public does not really suspect. (Concrete Int. 1985)

「予想できない荷重に対して、性質が不明な材料や部材を用いて、しかもシミュレーション技術が完璧でない状況で、いかに安全であると納得させられる建物を設計するか」という構造エンジニアの神髄を表している。100%の安全性を望む施主や世間に対して、そのことが不可能であることを知りながらも、いかに誠実に対応するのか、というエンジニアの苦悩も感じられる。

設計が確率論的な考えに基づくものと理解できると、「この建物は建築基準法を満足しているので、100%安全」とか「補強により2倍の安全性を」などの言葉に、うさん臭さを感じられるようになる。設計は不確定な条件下で一つの解を求める行為であるから100%の安全性は不可能であること、それでも設計者は安全性を追求し続けなければならないこと、安全性の設定と実現は設計者自身の責務であり建築基準法に頼るものではないこと、安全性は定量的に評価できないこと、などについて記憶にとどめてほしい。

●自然力には抵抗不可／自然力をかわす発想のすすめ

地震や津波などの自然の力に対して、構造物で100%抵抗するのは不可能であると認識した時、新しい視点が生まれる。例えば、防潮堤の高さを15mにかさ上げしても100%の安全が確保できないことがわかれば、かさ上げすることは住環境の悪化につながる無駄な投資ではな

いのか、といった疑問も浮かんでくる。自然の力に徹底的に抵抗する考えからの脱却もあり得る。自然の力の吸収と利用、取り換え可能な壊れやすい部材の積極的配置と壊れた部材の交換による構造物の存続などは、建築分野で得意とする考えである。

●徹底的に想定せよ／想定力のすすめ

単一の構造物が壊れる可能性（確率）がわずかでもあるのなら、その時にどうあるべきか、設計時に徹底的に想定しておけばよい。理由はどうであれ、想定に制限を設けることがいかに危険であるか、原発事故が物語っている。「想定外」という言葉があまりにも軽々しく使われている。憂うべき状況である。「想定外」と口に出すことは、設計者としての能力不足をさらけ出すだけでなく、設計者の責務を放棄する恥ずべき行為である。想像力を駆使して徹底的に起こり得る事象を想定し、これらに対して創造的に対処方法を考える。建築の設計で普通にやっていることの価値を、見直すチャンスである。

●システムの思考のすすめ

ここでいう「システム」とは、要素技術の集合を意味する。科学技術立国を標榜しているわが国では、要素技術の高さは誇るべきものであろう。しかし、要素技術を統合した「システム」についてはいかがであろうか。原発において、想定された事故に対応して構築したバックアップやフェイルセーフが、ドミノ倒しのように一気に崩れ去った事実は、システムの脆弱さを露呈したのではないだろうか。要素技術の閉じた領域内では優れた開発が進められているが、境界領域には興味を示さないという、タコ壺的発想が根底にあるのではないだろうか。建築で培った総合的・システムの思考を今こそ活かしたい。

●建築的発想が日本を救う

思いつくまま、今回の震災から得られた教訓と、今後の自然災害対応に臨むべき姿を記してきたが、振り返ると確率的思考も想定力もシステムの思考も自然の力を利用する発想も、いずれも建築に携わるわれわれが、普通にやっていることばかりである。日本の未来を支えるために、建築学科の学生諸君に対する期待は大きい。

(おかだあきら・建築学科教室主任・教授)

平成24年度 建築学科 履修要項

履修に関する一般事項

履修要覧

建築学科を卒業するために必要な条件は、入学時に渡された「学部要覧」に収められた履修要覧、および「建

平成24年度 クラス担任 学部

学年		クラス担任	研究室(駿河台5号館)
1年	専門	川島 和彦 (企画経営)	594A室
	〃	山崎 誠子 (設計・計画)	587A室
	〃	宮里 直也 (環境・構造)	569A室
2年	1組	橋本 修 (環境・構造)	578B室
	〃	田嶋 和樹 (環境・構造)	567B室
	2組	渡辺 富雄 (設計・計画)	584A室
	〃	山中新太郎 (設計・計画)	588B室
3年	1組	今村 雅樹 (設計・計画)	589B室
	〃	峰巢 浩生 (環境・構造)	578A室
	2組	重枝 豊 (設計・計画)	575A室
	〃	古橋 剛 (環境・構造)	564A室
	再修生	富田 隆太 (環境・構造)	579A室
4年	1組	池田 耕一 (環境・構造)	577B室
	〃	佐藤 慎也 (設計・計画)	586B室
	2組	佐藤 光彦 (設計・計画)	588A室
	〃	山田 雅一 (環境・構造)	565B室
	再修生	中田 善久 (環境・構造)	566A室

大学院理工学研究科建築学専攻博士前期課程

1年	安達 俊夫 (環境・構造)	565A室
2年	大川 三雄 (設計・計画)	576A室

大学院理工学研究科不動産科学専攻博士前期課程

1年・2年	宇於崎勝也	595B室
-------	-------	-------

平成24年度 委員会他担当

就職指導	中田 善久	566A室
公務員対策	川島 和彦	594A室
学芸員	重枝 豊	575A室
学生相談室相談員	川島 和彦	594A室
	山崎 誠子	587A室
建築教室事務室	栗原のり子	542室
	矢萩有美子	
設計講師室	末岡佐江子	553室
	西脇 梓	

「建築学科履修の手引き」に詳しく記載されている。これは大学と諸君との間の、教育に関する「契約」が述べられている重要文書であるため、卒業まで大事に取り扱い、年度初めには必ず読み直すべきものである。これら履修に関する諸規定は、諸君が卒業するまで変更することなく適用される。なお、本年度の2年次編入生には平成23年度の、また3年次編入生には平成22年度の履修規定が適用される。

これらの履修規定はカリキュラムの変更にともなって改訂されることがある。1～4年次生は平成21年度改正のカリキュラム（以下、「H21カリキュラム」）、5年次生は平成20年度改正のカリキュラム（以下、「H20カリキュラム」）、6～8年次生は平成15年度改正のカリキュラム（以下、「H15カリキュラム」）による。H15、H20カリキュラムの学生がH21カリキュラムの設置科目を受講する場合は、ガイダンス時に配布される新旧科目振替表（時間割の最終ページ参照）によってよく確認の上、受講計画を立てることが必要である。なお、入学時の履修規定に掲載されていない新規科目は受講できないことに注意してほしい。

相互履修および単位互換制度

日本大学相互履修制度は、所定の手続きを経て各学部の指定する講義を相互に履修できるようにしたもので、合格すれば単位が修得できる。受講可能科目、申請手続きなどはガイダンス時にクラス担任から説明がある。建築学科では、このようにして修得した単位を「卒業に必要な単位」には算入しないが、高学年で時間に余裕があれば、芸術、生産工、経済学部などの講義を受講して知識を広めるとよい。単位互換制度は、理工学部と短期大学部間で、それぞれ指定された講義を相互に履修できるようにしたものである。上の相互履修制度を短期大学部にまで広げたものと考えればよい。詳細情報は教務課またはクラス担任から伝えられる。

他学科設置科目の受講

2年次生は40単位以上、3年次生は85単位以上、4年次生は125単位以上を修得し、受講計画に余裕があつて、クラス担任から必要と認められた場合、受講科目担当教

員の許可を得て、建築学科以外の学科に設置された基礎教育および専門教育科目を受講することができる。詳しくは「学部要覧」を参照されたい。

受講手続き

毎年新学期の受講計画は、指定された期限までに WEB 上で受講手続きを行い、教務課に登録されたことを確認しなければならない。登録していない科目の試験を受けて合格しても単位は認められない。届出・確認の手続きは必ず自分の責任において行うこと。

教職課程・学芸員課程の受講

中学校および高等学校の教員免許または学芸員資格を取得希望の者は、それぞれの課程科目を受講することができる。履修条件その他の詳細は、「学部要覧」を参照されたい。

GPA 制度 (Grade Point Average)

日本大学として統一された成績評価システム (GPA 制度) は、授業内容の向上や成績評価の統一化などを目的としたもので、不合格科目や履修登録後の未履修科目の成績も考慮されることが特徴である。詳細は、1 年次のガイダンス時にクラス担任から説明がある。

サブメジャー制度

サブメジャー (副専攻) 制度が平成 20 年度入学生より適用され、他学科に設置された科目群の中から 16 単位を修得することで、建築学科の学位とは別に、特定分野の学習成果を理工学部が認証する。修了者には修了証書が授与される。詳しくは「学部要覧」および時間割を参照されたい。

早期卒業

本学部に 3 年以上在学し、卒業の条件として定める単位を優秀な成績で修得したと認められる者で、日本大学大学院理工学研究科に進学する者を対象とする制度で、平成 20 年度入学生より適用される。早期卒業者でも通常の卒業者と同様に建築学科の学位を取得でき、一級建築士の受験資格のための学歴要件も満足することができるが、認定されるためにはさまざまな条件が設定されている。詳細は「学部要覧」を参照するとともにクラス担任に相談されたい。

1 年次生

履修要項と学科の概要について

1 年次生は、ガイダンスの時に配布される「平成 24 年度 (2012) 学部要覧」に示された履修要覧に従って卒業まで学修する。この「学部要覧」には、履修規定、履修方法のほかに、各年次別の授業科目、単位、履修順序、受講手続きの方法、受講計画上の注意、教職課程の履修

方法および学生生活に関する情報が掲載されているので、卒業まで大事に保管し、よく検討して学修計画を立てること。また各授業科目の内容は、「学部要覧」の科目概要および WEB 上のシラバスで確認すること。また、1 年次では最大 49 単位までの履修登録が認められる。

建築学科の概要や教育目標、学修方法、コース (環境・構造コース、設計・計画コース、企画経営コース) の選択、その他については、ガイダンス当日に教室主任およびクラス担任の先生から説明がある。

H21 カリキュラムについて

カリキュラムは、将来必要となる国際資格 (JABEE, UNESCO-UIA) にも対応した科目構成となっており、専門科目の受講に必要な基礎教養や技術を修得することを目的としている。「学部要覧」の授業科目配置表を見るとわかるように、1 年次からの 2 年間で建築学の基礎となる幅広い領域の専門教育が受けられること、3 年次からは、「環境・構造コース」、「設計・計画コース」、「企画経営コース」を選択し、より高度な専門分野の知識と技術が習得できることが本カリキュラムの特徴である。なお、いずれのコースを選択しても一級建築士レベルの知識が得られるように工夫されている。各コースの履修の詳細については別途配布する「建築学科履修の手引き」を参照されたい。コースの選択・登録は 2 年次後期終了時に行われる。各コースには定員が設けられており、各人の希望、取得科目・単位、適性などを考慮しながら、建築学科教室がコースを決定する。

教養教育科目・外国語科目の履修について

時間割表を見るとわかるように、大学生にふさわしい人格形成のため、さらにこれから専門教育を受ける上で必要と思われる教養教育科目が 1 年次に設置されている。

外国語科目は、英語を中心にして、第 2 外国語にドイツ語、フランス語、その他を選択するとよい。

基礎教育科目の履修について

基礎教育科目は、工学全般の基礎となる「(選択) 共通基礎教育科目」と、専門教育を受ける上で基礎となる知識や学力を蓄えることを目標とした「(必修/選択) 専門基礎教育科目」が設置されている。専門基礎教育科目には、「デザイン基礎」、「建築基礎実験」の必修 2 科目および「建築基礎数学」、「建築基礎物理 I、II」、「コンピュータリテラシ」の選択 4 科目が設置されている。これらはすべて建築学の基礎であるから、1 年次ですべて受講するとよい。なお、専門基礎教育科目は駿河台校舎には設置されないこと、「デザイン基礎」の単位を修得しないと「建築設計 I」を受講できないことに留意すべきである。

専門教育科目の履修について

専門教育科目には、必修 5 科目と選択 3 科目の計 8 科目が設置されている。この内、「環境の計画と技術」、「社

会と建築・都市インセンティブ」,「建築デザインと歴史」,「構造の計画と技術」の4科目は,広範な建築分野への導入と学習意識の向上を図るために設けた科目である。これらは2年次以降の専門科目を履修するための基礎知識を習得するものであり,すべての受講をすすめる。また,「建築スタディ・スキルズ」は,専門科目を履修するための基礎教養や技術を習得するものである。なお,1年次の専門教育科目は駿河台校舎には原則として設置されないこと,「建築設計Ⅰ」の単位を修得しないと「建築設計Ⅱ」を受講できないことに留意すべきである。

2年次生

専門教育科目の履修について

履修規定は入学時に配布した「平成23年度(2011)学部要覧」による。2年次から本格的な専門教育課程に入り,教育効果を高めるために2クラスに分けて各専門科目を受講するように時間割が編成されている。クラスは学生番号が奇数の学生が1組,偶数の学生が2組である。それぞれ該当するクラスの時割に従って,受講計画を立ててほしい。なお,1年次設置の専門教育科目を受講する必要のある者は,原則として船橋校舎の授業を受けなければならない。

2年次設置の専門教育科目は,いずれも建築を学んでいく上の基礎的な科目であり,ほぼ二級建築士レベルの内容を扱っていると考えてよい。このため,必修科目(12科目)はもちろんのこと,共通に位置づけられている7科目についても,「必修」と同様に考えて受講してほしい。また,環境・設備系群,構造・生産系群,設計・計画系群,企画経営系群に分類されている科目の中には,一級建築士受験の必須科目である「構造力学Ⅲ」や,専門的な内容を扱う「建築企画経営」なども含まれている。これらは次年度選択することになるコースの入門的な内容である。この内,「建築企画経営」は企画経営コースの選択必修科目(卒業のためには☆印6科目中5科目以上を修得する必要がある)であり,本コースを目指す場合には必ず受講することをすすめる。

H21カリキュラムの系統図や分類については,1年次のガイダンスで配布した「2011年 建築学科履修の手引き」を再読して,各科目の位置づけと相互の関連をよく検討した上で選択科目を決めるとよい。なお,3年次終了までに卒業に必要な単位の約75%にあたる98単位以上を修得していないと,4年間で卒業できない。受講計画全般については,クラス担任に相談するとよい。

基礎教育科目の受講について

2年次に設置されている基礎教育科目は,共通基礎教

育科目では「線形代数学Ⅰ,Ⅱ」,「科学技術史」,専門基礎教育科目では「材料化学Ⅰ」,「建築情報処理Ⅰ」の5科目が設置されている。受講計画は,環境工学,構造,都市計画の基礎として「線形代数学Ⅰ,Ⅱ」を,構造・材料の基礎として「材料化学Ⅰ」を,環境工学,建築計画の基礎として「建築情報処理Ⅰ」の受講をすすめる。

環境・構造コース,設計・計画コース,企画経営コースの選択と登録について

2年次の終了時に,「環境・構造コース」,「設計・計画コース」,「企画経営コース」のいずれかを選択・登録し,3年次以後は,それぞれのコースのカリキュラムに従って,各科目の受講計画を立てることになる。ここで注意すべきことは,コース毎に卒業条件が定められていることである。また,3年次にはコース毎に独自の専門教育科目が設置されている。これらの科目はコース決定後に初めて受講できること,また他コースの独自科目の受講は他学科受講扱いになることにも注意してほしい。いいかえれば,2年次終了時にいずれかのコースに着手できなければ,4年間での卒業が不可能になることを肝に銘じてほしい。

コースに着手できる条件として,建築学科教室は「2年終了時の取得総単位数が52単位」という条件を設定している。これは卒業研究・設計への着手条件(3年次終了時に98単位)から,1年間で取得できる単位数の上限(46単位)を差し引いた数値で,大部分の学生が無理なく修得できる単位数であろう。

コースの決定は,学生の希望を十分に尊重することを原則とするが,希望コースの偏りが生じた場合には,教育の質を確保するために振り分けを実施せざるを得ない場合もある。このコース振り分けはクラス担任を中心に建築学科教室が実施するが,学生個々の修得科目の成績(総得点,平均点)や内容などに基づき適性を勘案しながら決定する方針である。これらの具体的な振り分け方法については,後日クラス担任から説明がある。なお各コースの最大受け入れ可能な学生数の目安は,教室・製図室の収容人数やコース設定時の定員から,環境・構造コースと設計・計画コースはそれぞれ約150名,企画経営コースは約50名と定めている。

コースの決定は次のようなスケジュールで実施する予定である。まず前期終了時または後期開始時に,希望コースのアンケートを行う。これは希望コースの偏りの推定のために実施するため,必ずアンケートに応じてほしい。続いて後期終了時に希望コースの登録を実施する。クラス担任は,登録された希望コースに基づいて春季休暇中にコースを決定し,3年次開始時のガイダンス前に発表を行う。以上の具体的な日程は掲示や建築学科のホームページを通じてクラス担任から伝えられるので,確認を怠らないように心がけてほしい。

「建築生産実験」, 「建築設計Ⅱ, Ⅲ」の受講について

実験も建築設計も十数名の小グループに分けて行われるので、それぞれのガイダンスには必ず出席すること。駿河台校舎の実験室は手狭なので、各班ごとに時間をずらして各種実験が行われることが多い。実験の予定・準備する資料やその他の注意事項は駿河台校舎7号館3階と5号館6階566A室(中田研究室)掲示板に掲示されるので、確認するように心がけてほしい。また、建築設計の注意事項は5階EVホール掲示板に掲示される。

3年次生

各コースの受講に関する原則について

3年次では、自分が所属する環境・構造コース、設計・計画コース、企画経営コースのいずれかのコースのカリキュラムに沿って、受講計画を立てる必要がある。各コースで受講できる科目は、時間割を見ると判断しやすい。3年次からの時間割は2年次までのようにクラス毎に分かれてはならず、コース毎に分かれて記載されている。各コースの時間割に掲載されている科目は、入学時に配布された「平成22年度(2010)学部要覧」あるいは「2010年度 建築学科履修の手引き」の授業科目配置表に対応している。各自が所属するコースの科目を受講する場合には何ら制限はないが、他コースに設置した科目を受講す

る場合には制限がある。後述する「他コース設置科目の受講について」を参照してほしい。

受講計画の際には履修登録単位数の上限(46単位)について留意すべきであるが、2年次までの設置科目、特に1, 2年次必修科目を未修得の場合、優先的に受講する必要がある。この場合、卒業研究・設計着手条件を満足することも重要である。受講計画が困難な場合にはクラス担任に相談するとよい。

基礎教育科目の受講について

3年次に設置されている基礎教育科目は、共通基礎教育科目では「数理統計学Ⅰ, Ⅱ」が、また専門基礎教育科目では、「材料化学Ⅱ」, 「建築情報処理Ⅱ」, 「振動工学」, 「芸術史」が設置されている。受講計画上は、環境・構造・建築計画・都市計画の基礎として「数理統計学Ⅰ, Ⅱ」を、構造・材料の基礎として「材料化学Ⅱ」を、構造の基礎として「建築情報処理Ⅱ」, 「振動工学」を、建築計画・設計の基礎として「芸術史」の受講をすすめる。

専門教育科目「共通科目」の受講について

3年次以上の専門教育科目は、「共通科目」と「各コース独自科目」に大別できる。

「共通科目」は必修科目とコース共通系群の選択科目に分かれているが、建築を学ぶ上で基礎となる科目であり、一級建築士受験の際に不可欠な科目も含まれている。共通科目の「共通」という意味は、「コースにかかわらず同じ内容(シラバス)で実施する科目」ということであるが、

表1 3年次専門教育科目「共通科目」の構成

科目名	単位	環境・構造コース	設計・計画コース	企画経営コース
※都市計画Ⅰ	2	●	●	●
建築環境実験	1	●	○	○
建築構造実験	1	●	○	×
建築設計Ⅳ	2	○	●	●
企画経営実習	1	×	×	●
※建築施工法	2	●	●	●
※建築積算・生産管理	2	○	○	○
※地盤基礎工学Ⅰ	2	○	○	○
※鋼構造	2	●	●	●
※鉄筋コンクリート構造Ⅰ	2	●	●	●
※建築設備Ⅱ	2	○	○	○
循環環境管理	2	○	○	△
建築人間工学	2	○	○	○
ゼミナール	1	○	○	○

● 必修 ○ 選択 △ 他学科受講により受講可能 × 受講不可
※ 一級建築士受験のために重要

表2 3年次専門教育科目「各コース独自科目」一覧

	環境・構造コース	設計・計画コース	企画経営コース
科目名と単位	建築設備Ⅲ	2 ×建築設計Ⅴ	2 都市デザイン*2
	環境工学Ⅲ	2 ×設計演習Ⅱ	2 経済学特論Ⅰ
	構造力学Ⅳ	2 ×設計演習Ⅲ	2 経済学特論Ⅱ
	構造力学演習Ⅳ	1 設計計画Ⅰ	2 会計学
	地盤基礎工学Ⅱ	2 設計計画Ⅱ	2 民法Ⅰ
	対地震構造	2 ランドスケープデザイン	2 民法Ⅱ
	鉄筋コンクリート構造Ⅱ	2 インテリアデザイン	2 行政法規
	構造設計Ⅰ及び演習	3 建築史Ⅲ	2 不動産経営
		2 建築史Ⅳ	2 不動産維持管理
		2 都市デザイン*2	2 鑑定評価理論Ⅰ
		2 ×都市調査及び演習	2 環境システム解析
		2 ×デザインワークショップⅠ*1	2 地域開発計画
		2 ×デザインワークショップⅡ*1	2 住環境計画
			2 ×住環境デザイン
		2 不動産企画	

× 他コースは受講不可能

*1 夏季集中講義として開講される

*2 設計・計画コースと企画経営コースの共通科目

各コースによって必修・選択の区別などの取り扱いが異なっている科目もあるため、注意が必要である。表1を参考にしてほしい。

表1の中で△印は他学科受講の手続きを行った後に受講可能な科目を、また×印は他学科受講が認められない科目である。詳しくは後述の「他コース設置科目の受講について」を参照してほしい。

また、表1の※印のついた科目は、一級建築士受験のために極めて重要と考えられる科目である。所属コースにかかわらず受講することを強くすすめる。

「ゼミナール」は、卒業研究・設計の着手前に、各研究室で行われている研究の状況を実際に体験してもらうことを目的として設置された選択科目である。事務処理上、いずれかの研究室に所属することになるが、他研究室が開講する講座を自由に受講することが可能である。所属研究室および受講研究室は、所属コースに関係なく希望することができる。「ゼミナール」の実施要項やスケジュールは、前期試験の終了時にクラス担任から具体的な説明がある。

専門教育科目「各コース独自科目」の受講について

各コースで設定された「独自科目」は、共通科目より専門性の高い科目で、各コース独自の教育目標に対応して設置されたものである。いずれも将来のスペシャリストを目指す上で基礎的で重要な科目である。時間割上、これらの科目は当該コースにしか設置されていないが、他コースに設置された科目を受講する場合には、他学科受講扱いとして承認が必要なこと、卒業条件には6単位まで算入可能であるが、卒業研究・設計着手条件には算入されないことに注意してほしい（後述の「他コース設置科目の受講について」を参照のこと）。

表2に3年次に設置された「各コース独自科目」の一覧を示す。×印の科目は、他コースの学生は受講不可能であることに注意してほしい。

他コース設置科目の受講について

時間割において自分が所属するコースに設置されている科目のみを受講することを原則とする。すなわち「共通科目」のように、所属コースと他コースで同一名の科目がある場合でも、他コースの科目を受講することは原則的に認められない。しかし、コース独自科目のように、所属しているコースに受講希望の科目がない場合は、以下の条件をすべて満足する場合に限り受講が認められる。

- ・2年次終了までの修得単位数が85単位以上の場合（3年次編入生は緩和措置があるので、担任と相談すること）。
- ・3年次終了時に卒業研究・設計着手条件を満足する見込みがあり、かつ受講計画に余裕がある場合。
- ・クラス担任と科目担当教員が許可した場合（許可印が必要）。

・当該科目が、実験・実習・設計などの科目でない場合（具体的には表1および表2中の×印のついた科目は、受講ができない）。

これらの条件は、他学科設置科目の受講の場合と同じものである。すなわち、他コースの独自科目受講は他学科の設置科目受講扱いになることに注意してほしい。

また、こうして修得した単位は、6単位までは「卒業に必要な単位」に算入することは可能であるが、卒業研究・設計着手条件には算入できないことに留意すべきである。

卒業研究・設計着手条件について

4年次に卒業研究・設計に着手するためには、卒業条件の単位数130単位の約75%に当たる98単位以上を3年次中に修得しなければならない。この単位数は、単に3年次までに修得した単位の合計ではなく、卒業条件を考慮した以下の条件を満足する必要があるため、十分に注意してほしい。この卒業研究・設計の着手条件は厳守され、例外はない。

- ・教養教育科目、保健体育科目、基礎教育科目はそれぞれ、10単位、2単位、22単位まで算入する（それぞれの単位数を超えて修得している場合でも、当該単位数として扱われる）。
- ・外国語科目は、必修の英語4科目4単位と、その他を含めて10単位まで算入する。
- ・1, 2年次設置の必修科目をすべて修得していること。
- ・専門教育科目の修得単位数の合計が、必修科目を含めて60単位以上修得していること。
- ・修業年数が3年以上を経過していること。
- ・他学科の設置科目（他コースの独自科目も含む）は、算入しない。

3年次編入生の受講について

3年次編入生は、1, 2年次の設置科目から優先的に受講しなければならない。なお、編入生は認定単位の制約から3年次の受講計画が一番困難である。このため編入生には、他コース設置科目の受講に関して、特別な条件が設定されることがあるので、受講計画立案の段階でクラス担任によく相談してほしい。

就職について

本来ならば、4年次になって卒業研究・設計指導の先生が決まり、しばらく研究室活動を行ってから、大学院進学や就職先など卒業後の進路について指導の先生と相談するのが理想であるが、実際には就職活動は3年次の10月ごろから始めざるを得ないようになってしまっている。そこで、積極的に建築学科教室の就職情報（学内のみ閲覧可能なホームページによる情報あり）を見たり、企業のホームページ、D.M.を検討するなど、情報収集はできるだけ広い範囲で行い、進路について身近な先生方や先輩、両親などに早めに相談するとよい。

4 年次生

4 年次の新学期で最も大事なことは、諸君のそれまでの修得単位数によって当該年度に卒業する見込みがあるかどうかの判断が下されることである。卒業見込み者＝卒業研究・設計着手者であり、大学生活最後の年度は卒業研究・設計のテーマ設定と指導教員の選択から始まる。

大学生活の締めくくりは、4 年生の卒業研究・設計である。研究室に所属して担当教員と研究・設計テーマを追求し、大学院進学も含めて、広い領域を含んだ「建築」の中から自分の個性や適性にあった指標を定めていく。

卒業研究・設計の着手について

建築学科における卒業研究・設計着手条件は、上述の「3 年次生」の項目に記述している「卒業研究・設計着手条件について」を参照すること。この条件を満たした学生に対しては、理工学部より卒業見込証明書が発行される。

卒業研究・設計着手条件を満足する学生は、「駿建」2012 年 1 月号のテーマを参考にして、自分の希望する研

究室に卒業研究・設計の申し込みをすることができる。原則として、研究室は所属コースに関係なく希望することができるが、着手のための条件を定めている研究室もある。上述の「駿建」や 4 月初めの卒業研究・設計ガイダンスを通じて情報収集につとめてほしい。

申し込みの方法などについては、クラス担任から 4 年次事務ガイダンスの際に詳しい説明がある。

専門教育科目の受講について

環境・構造、設計・計画、企画経営の各コースの 4 年次に設置されている専門教育科目を表 3 と 4 に示す。2, 3 年次の主な専門教育科目を修得した上で、将来の進路なども考慮して、所属しているコースの設置科目から選択して受講するとよい。他コースに設置されている科目を受講することも可能であるが、以下の条件をすべて満足する必要がある。

- ・3 年次終了時までの修得単位数が 125 単位以上の場合。
- ・4 年次終了時に卒業できる見込みがあり、かつ受講計画に余裕がある場合。
- ・クラス担任と科目担当教員が許可した場合（許可印が必要）。
- ・当該科目が、実験・実習・設計などの科目でない場合（具体的には表 4 中の×印の付いた科目は受講できない）。

なお、他コース設置科目を修得した場合、6 単位までは「卒業に必要な単位」として算定することができる。これらの専門教育科目は各コースの特徴を反映しているため、コース毎に大きく異なっており、注意が必要である。履修計画を立てる際には、各自の進路や卒業研究・設計テーマとも関連づけて、卒業研究・設計の指導教員やクラス担任と相談の上、選択するのが望ましい。

専門教育科目に関する卒業条件

建築学科の卒業に必要な単位は 130 単位以上と設定されているが、この内、教養教育科目が 10 単位以上、外国語科目が必修の英語 4 単位と選択の英語 2 単位を含めて 10 単位以上、保健体育科目が 2 単位以上、共通基礎教育科目が 14 単位以上、専門基礎教育科目が 8 単位以上、その他いずれの科目区分にもよらない科目（他学科・他コース設置科目も含む）が 6 単位以上、専門教育科目としては 80 単位以上取得する必要がある。

【環境・構造コース】

- ①必修科目 23 科目 45 単位
- ②選択共通科目（24 科目 46 単位）から、1・2 年次の科目（11 科目 21 単位）の内、9 科目以上を含めて 27 単位
- ③環境・設備系群科目（6 科目 10 単位）から 8 単位、または構造・生産系群科目（15 科目 27 単位）から 8 単位の 3 条件が設定されている。各コースは以下の条件をすべて満足して、80 単位以上修得することが条件となって

表 3 4 年次設置共通科目の構成

科目名	単位	環境・構造コース	設計・計画コース	企画経営コース
卒業研究・設計	6	●	●	●
建築学総合演習	1	●	●	●
建築学総合講座	2	○	○	○
防災計画	2	○	○	○
建築経済	2	○	○	△
建築法規Ⅱ	2	○	○	△
都市計画Ⅱ	2	○	○	○

● 必修 ○ 選択 △ 他学科受講により受講可能

表 4 各コースの独自科目一覧（4 年次）

	環境・構造コース	設計・計画コース	企画経営コース
科目名と単位	環境計画 2	特別講義*1 (デザイン論) 2	不動産特別講義 2
	設備計画 2	×建築設計Ⅵ 2	不動産マーケティング 2
	特別講義*1 (構造設計論) 2	設計計画Ⅲ 2	鑑定評価理論Ⅱ 2
	×測量及び実習 2	保存修復論 2	都市防災 2
	構造解析法 2	×デザインワーク ショップⅠ*2 1	×不動産開発プロジェクト 2
	構造設計Ⅱ 2	×デザインワーク ショップⅡ*2 1	建築マネジメント 2

× 他コースは受講不可能

*1 どちらか一方のテーマを選択・受講

*2 夏季集中講義として開講される

いる。これは卒業研究・設計に着手できた場合、4年次前期で十分に修得できる単位数である。

【設計・計画コース】

- ①必修科目 22 科目 45 単位
- ②選択共通科目 (25 科目 46 単位) から 1・2 年次の科目 (11 科目 21 単位) の内、6 科目以上を含めて 15 単位
- ③設計・計画系群科目 (18 科目 34 単位) から 20 単位の 3 条件が設定されている。この内、③は 2 年次の科目の「設計演習 I」以外はすべて 3 年次以上のコース独自科目である (表 2, 4 を参照)。この中には建築設計、設計演習、デザインワークショップなどの演習科目が比較的多く含まれており、受講計画の際にはこの点を考慮しておく必要がある。

【企画経営コース】

- ①必修科目 23 科目 46 単位
- ②選択共通科目 (21 科目 39 単位) から 10 単位
- ③企画経営系群科目 (21 科目 41 単位) から 24 単位。ただし、☆印の科目 (「建築企画経営」, 「経済学特論 I」, 「民法 I」, 「住環境デザイン」, 「不動産企画」, 「不動産開発プロジェクト」の 6 科目) から 5 科目以上を含めて 24 単位の 3 条件が設定されている。また、4 年次設置の専門科目は、コース独自科目がほとんどである。

卒業達成度評価科目について

理工学部では、ディプロマ・ポリシー (DP) に基づき卒業時の教育の質の保証を明示するものとして、卒業達成度評価科目の設置を掲げている。

建築学科では、卒業後 2 年間の実務経験後に一級建築士に合格できることを教育目標の 1 つに設定し、「建築学総合演習 (必修 1 単位)」と、これと連動した講義科目として「建築学総合講座 (選択 2 単位)」の 2 科目を、前期に設置している。これらの授業では、専門内容を一級建築士と同じく 5 分野 (計画、環境・構造、法規、構造、材料・施工) に分け、それぞれに対してミニマム・リクワイアメント (最低限、修得しておかなければならないレベル) を設定している。必修の「建築学総合演習」では、5 分野それぞれの筆記試験においてすべて合格点に達することが単位取得の条件となる。よって 1 分野でも不合格となれば、次年度に再履修しなければ卒業できないことになるので、気を引き締めて取り組んでほしい。なお履修内容は、コース共通で設置された必修・選択科目で学んだ内容が主となるが、当然その範囲は広いものとなる。学科で独自に作成した問題集をすでに渡しているので、これを繰り返し学習し、理解を深めてほしい。

大学院進学について

デザイナー、構造デザイナー、(室内) 環境設計者、研究職など、将来、専門性の強い分野での活動を目指す諸

君には、大学院博士前期 (修士) 課程への進学をすすめる。

建築学科の卒業生が進学する理工学研究科の専攻としては、「建築学専攻」および「不動産科学専攻」が挙げられる。理工学研究科は博士前期 (修士) 課程と博士後期 (博士) 課程を設置している。建築学および不動産科学専攻の平成 24 年度入学試験の募集定員はそれぞれ 50、10 名の予定である。

ここでは建築学専攻の修士課程進学についてのみ説明する。学部の卒業見込者および卒業生 (社会人は除く) が受験できる入学試験は、7 月に実施される「学内推薦入学試験」と「一般第 I 期入学試験」、9 月に実施される「一般第 II 期入学試験」および 3 月実施の「一般第 III 期入学試験」の 4 種類である。

現状では、大学院進学者は学部 4 年次卒業研究・設計の指導教員の下で継続して指導を受けるケースが大部分を占めている。したがって、進学希望者は大学院での学修・勉強・研究・設計などを視野に入れて卒業研究・設計の指導教員の研究・設計活動などに関する情報を収集しておくことをすすめる。

大学院修士課程の学生を指導できる教員 (現状 18 名) を次に示す。ここではこれらの教員を「大学院教員」と呼ぶことにする。

- 環境・設備系 (環境工学特別研究) : 2 名
池田耕一、井上勝夫
- 材料・構造・防災系 (建築材料学特別研究, 建築構造学特別研究, 防災工学特別研究) : 5 名
中田善久 (材料), 安達俊夫 (構造), 岡田 章 (構造), 白井伸明 (構造), 古橋 剛 (防災)
- 設計・計画系 (建築史特別研究, 建築設計特別研究, 建築計画特別研究, 都市計画特別研究) : 11 名
大川三雄 (建築史), 重枝 豊 (建築史), 本杉省三 (設計・計画), 今村雅樹 (設計), 佐藤光彦 (設計), 横河 健 (設計), 佐藤慎也 (計画), 八藤後 猛 (計画), 渡辺富雄 (計画), 根上彰生 (都市計画), 横内憲久 (都市計画)

建築学科では、より広い分野にわたる教育・研究活動の推進、充実した指導体制の確立などを目指して以下のルールを設けている。

- ①大学院教員 1 人あたりの受入大学院生数は 6 名程度とする。
- ②学内推薦入学試験の受験資格は、卒業見込者の成績 (卒業研究着手時) がおおむね上位 25 ~ 30% に入る学生で、大学院教員の推薦を受けた者とする。ただし、大学院教員が推薦できる学生数は最大 4 名までとする。
- ③大学院の推薦入学試験および一般入学試験の受験希望者は、国家公務員採用試験を受験していることが望ましい。

④短大教員を含む専任講師・助教以上の大学院教員以外の教員は、大学院教員と協同指導することで大学院生を受け入れることができる。ただし、受入大学院生は教員1人あたり2名程度とし、協同指導の大学院教員の6名枠には含めないものとする。

以上が大学院進学に関する情報の概要であるが、詳しくは4年生クラス担任に相談するとよい。

また、不動産科学専攻に関する詳細な情報を知りたい学生は、横内憲久教授または根上彰生教授に相談すること。

建築実験について

建築実験は、それぞれ十数名の班単位で行われる。各実験項目についての班分けや実施日程などは、別にプリントとして新学期の総合ガイダンス時にクラス担任から配布される。実験科目と実験項目、担当者一覧を表5に示す。

建築設計について

1～4年次生は、H21カリキュラム、5年次生は、H20カリキュラム、6～8年次生は、H15カリキュラムでの履修になるので留意すること。

表5 建築実験の実験項目と担当者一覧

実験科目名と担当責任者	実験項目と担当者
建築基礎実験（必修・2単位） 宮里	化学実験（一般化学：小泉） 物理実験（一般物理：伴） 専門科目 構造部材（宮里） 構造強度（宮里） 風洞実験（三橋，下村，広部） 振動実験（古橋（剛），秦）
建築生産実験（必修・1単位） 中田	木材・コンクリート実験 （中田，飛坂，和美） 鋼材実験（三橋，秦）
建築環境実験（環境・構造コース：必修，他コース：選択；1単位）井上	騒音実験（井上，雷田） 設備実験（池田，蜂巢） 光実験（橋本）
建築構造実験（環境・構造コース：必修，設計・計画コース：選択；1単位）宮里	構造安定実験（宮里） 構造部材実験（白井，田嶋，清水（泰）） 土質実験（安達，山田）

(注) 実験項目については、担当者の研究室へ、合否その他総合的な質疑は、担当責任者に問い合わせること

- ・建築設計の受講に関する手続きの詳細は、学期初めに行う建築設計ガイダンスの際に配布する「2012年度 建築設計課題集」に記載してある。本年度の建築設計科目の担当者、事務担当者についても課題集を参照のこと。
- ・建築設計関係科目に関する一般的な連絡は、駿河台校舎は5号館5階EVホール掲示板、船橋校舎は14号館3階講師室前に掲示する。

選択するコースによって、建築設計科目の履修条件が異なるので十分留意すること。

「建築設計」はⅠ～Ⅲまでが全コース必修科目で、2年次後期の「設計演習Ⅰ」は選択科目である。3年次前期の「建築設計Ⅳ」は、設計・計画、企画経営コースでは必修科目、環境・構造コースでは選択科目であり、課題内容も異なる。

「建築設計Ⅴ，Ⅵ」，「設計演習Ⅱ，Ⅲ」，「デザインワークショップⅠ，Ⅱ」は、設計・計画コースのみの設置科目であり、選択科目である。将来、主として設計（デザイン）方面に進む学生を対象とした課題によって構成されている。

「デザインワークショップⅠ，Ⅱ」は、3，4年次生を対象として、夏季集中授業として開講される。

- ・必修科目である「デザイン基礎」，「建築設計Ⅰ～Ⅲ」は、設置順に段階的に単位を修得しなければならない。
- ・選択科目である「建築設計Ⅳ～Ⅵ」，「設計演習Ⅰ～Ⅲ」は、設置順に段階的に単位を修得することが望ましい。

表6 建築設計科目一覧

学年	前・後期	科目
1年	前期	デザイン基礎
	後期	建築設計Ⅰ
2年	前期	建築設計Ⅱ
	後期	建築設計Ⅲ
		設計演習Ⅰ
3年	前期	建築設計Ⅳ*
		設計演習Ⅱ
	後期	建築設計Ⅴ
		設計演習Ⅲ
夏季集中	デザインワークショップⅠ，Ⅱ	
4年	前期	建築設計Ⅵ
	夏季集中	デザインワークショップⅠ，Ⅱ
	前・後期	卒業研究・設計

■ 全コース必修
* 設計・計画コース，企画経営コースの学生は必修

建築士受験資格について

平成 20 年 11 月 28 日に改正建築士法が施行され、この改正で建築士受験資格の見直しがなされている。大学に関係する部分では、学歴要件、実務経験要件の変更がある。

学歴要件

建築士試験の受験資格について、「所定の学科卒業」という従来の要件から、「国土交通大臣が指定する科目を修めて卒業」という要件に変更された。この見直しは平成 21 年度入学生から適用される。法施行時(平成 20 年 11 月 28 日)にすでに所定の学科を卒業している人、所定の学科に在学中の学生には従来の学歴要件が適用される。

新制度では学科が国土交通大臣に対して開講科目を登録し、学生一人ひとりが卒業までに履修した科目の内訳と単位数に応じて、建築士受験資格を得ることになる。

建築学科では、平成 21 年度～ 24 年度入学生に対しては 92 科目 173 単位が登録されている。環境・構造、設計・計画の 2 コースは卒業条件を満たすだけで、自動的に実務経験 2 年で一級建築士の受験資格が、実務経験 0 年で二級・木造建築士の受験資格が得られる。一方、企画経営コースは卒業条件を満たすだけでは実務経験 2 年で一級建築士の受験資格が得られず、実務経験 3 年で一級建築士の受験資格が、実務経験 0 年で二級・木造建築士の受験資格が得られる。実務経験 2 年で一級建築士の受験資格を得るためには、履修科目の計画にあたって注意が必要である。登録科目についてはクラス担任に確認してほしい。

実務経験要件

建築士の受験には、学歴要件の他に定められた期間の実務経験が必要である。従来は大学院博士前期課程の修了が 2 年間の実務経験に認められていたが、新制度では、大学院における建築設計(意匠設計、構造設計、設備設計等)・工事監理に関するインターンシップを必須条件として、これと連携した演習・実習等の科目、講義科目の単位取得状況に応じて実務経験年数を算定する。この見直しは平成 21 年度大学院入学生から適用される。法施行時(平成 20 年 11 月 28 日)にすでに所定の課程を修了している人、所定の課程に在学中の大学院生には従来の実務経験年数の算定が適用される。

新制度では専攻科が国土交通大臣に対して開講科目を登録し、学生一人ひとりが大学院修了までに履修した科目の内訳と単位数に応じて、実務経験年数を算定する。

建築学専攻科では、平成 24 年度入学生に対しては、夏季休暇、春季休暇を利用する学外のインターンシップ I、II、III、IV、V の他、学内のインターンシップ 2 科目と関連する演習・実習 7 科目、講義 13 科目が登録されている。

これらの科目を履修することで、意匠設計、構造設計、設備設計の各専門領域で 1 年または 2 年の実務経験年数を得ることが可能になっている。履修の仕方によっては、実務経験年数が 0 年となることもある。

履修計画にあたっては、学外のインターンシップは夏季休暇、春季休暇を利用すること、大学院修了の単位数には入らないこと等注意すべき点がある。自己の将来設計を考慮して、履修科目の計画をする必要がある。登録科目についてはクラス担任に確認してほしい。

インターンシップ

インターンシップは性格の異なる 2 種類で構成されている。1 つは学外の建築士事務所等における実務訓練であり、もう 1 つは専任教員(実務として設計活動を行っている建築家/一級建築士=プロフェッサー・アーキテクト)と設計事務所を自ら経営ないしチーフ・アーキテクトとして活動している建築家(非常勤講師/一級建築士)が連携して学内で行われる設計実務訓練である。

表 7 指定科目に係る必要単位数と必要な建築実務の経験年数(学部)

指定科目	一級建築士試験			二級・木造建築士試験		
	7 単位	7 単位	7 単位	5 単位	5 単位	5 単位
①建築設計製図	7 単位	7 単位	7 単位	5 単位	5 単位	5 単位
②建築計画	7 単位	7 単位	7 単位			
③建築環境工学	2 単位	2 単位	2 単位	7 単位	7 単位	7 単位
④建築設備	2 単位	2 単位	2 単位			
⑤構造力学	4 単位	4 単位	4 単位			
⑥建築一般構造	3 単位	3 単位	3 単位	6 単位	6 単位	6 単位
⑦建築材料	2 単位	2 単位	2 単位			
⑧建築生産	2 単位	2 単位	2 単位	1 単位	1 単位	1 単位
⑨建築法規	1 単位	1 単位	1 単位	1 単位	1 単位	1 単位
①～⑨の計 (a)	30 単位	30 単位	30 単位	20 単位	20 単位	20 単位
⑩その他 (b)	適宜	適宜	適宜	適宜	適宜	適宜
(a)+(b)	60 単位	50 単位	40 単位	40 単位	30 単位	20 単位
必要な実務経験年数	2 年	3 年	4 年	0 年	1 年	2 年

表 8 実務経験年数と必要単位数(大学院)

必要単位数		インターンシップ の単位数	インターンシップ関連科目 の単位数	
実務経験 2 年	実務経験 1 年		演習・実験・ 実習	講義
30 単位以上	15 単位以上	4 単位以上	8 単位以下	8 単位以下

建築学科 専門科目使用教科書並びに参考書

(教科書は太字, その他は主要参考書)

科目名	書名	編著者名・訳者名など	発行所名	定価(税込)	取扱所
環境の計画と技術	環境工学用教材 環境編	日本建築学会 編	日本建築学会	1,995	書店
構造の計画と技術	空間 構造 物語	斎藤公男	彰国社	3,780	書店
	建築構造のしくみ	川口 衛 他	彰国社	2,625	書店
	新しい建築のみかた	斎藤公男	エクスナレッジ	2,520	書店
建築デザインと歴史	建築デザインの戦略と手法 —作品分析による実例トレーニング	サイモン・アンウイン 著 重枝 豊 監訳 上利益弘 訳	彰国社	3,360	ガイダンス時に案内
環境工学 I	建築環境工学 [改訂3版]	田中俊六, 武田 仁 他	井上書院	3,150	書店
	建築環境工学用教材 環境編	日本建築学会 編	日本建築学会	1,995	書店
環境工学 II	建築音響と騒音防止計画	木村 翔	彰国社	3,570	建築音響研究室 (ガイダンス時に案内)
	建築環境工学用教材 環境編	日本建築学会 編	日本建築学会	1,995	書店
建築設備 I, II, III	建築設備学教科書 新訂第二版	建築設備学教科書研究会 編著	彰国社	3,780	書店
	環境工学用教材 設備編	日本建築学会 編	日本建築学会	1,995	書店
	空気調和設備の実務の知識	空気調和・衛生工学会 編	オーム社	4,434	書店
	給排水・衛生設備の実務の知識	空気調和・衛生工学会 編	オーム社	4,414	書店
	暮らしの技術としての建築設備入門	吉田あきら 他	理工図書	4,148	書店
	新建築設備叢書16 建築設備概論第二版	吉田 燦	彰国社	4,200	
環境計画	実務的騒音対策指針 第二版	日本建築学会 編	技報堂出版	4,725	建築音響研究室 (ガイダンス時に案内)
建築基礎実験・建築生産実験	建築材料実験用教材	日本建築学会	三美印刷	1,995	書店
	はじめてまなぶちからとかたち	日本建築学会	日本建築学会	1,995	書店
構造力学 I, II	建築構造力学 (上)	構造力学研究会	理工図書	3,150	ガイダンス時に案内
	建築の構造とデザイン	斎藤公男 監訳	丸善	2,940	書店
	わかる建築学4 建築構造学	安達, 丸田 編	学芸出版社	2,940	書店
構造力学 III, IV	建築構造力学 (下)	構造力学研究会	理工図書	3,150	ガイダンス時に案内
	建築の構造とデザイン	斎藤公男 監訳	丸善	2,940	書店
	鋼構造塑性設計指針	日本建築学会	日本建築学会	4,200	日本建築学会, 書店
	わかる建築学4 建築構造学	安達, 丸田 編	学芸出版社	2,940	書店
構造力学演習 I, II, III, IV	建築構造力学演習(上, 下)	齋藤謙次	理工図書	各1,837	ガイダンス時に案内
建築材料 I, II	最新建築材料学		井上書院		ガイダンス時に案内
応用力学 I, II	建築材料力学	榎並 昭	彰国社	2,783	地盤基礎研究室(565B)
応用力学演習 I, II	建築応用力学演習	加藤 渉, 榎並 昭	共立出版	2,310	書店

科目名	書名	編著者名・訳者名など	発行所名	定価(税込)	取扱所
構造とデザイン	空間 構造 物語	斎藤公男	彰国社	3,780	書店
	新しい建築のみかた	斎藤公男	エクスナレッジ	2,520	書店
	建築構造のしくみ	川口 衛 他	彰国社	2,625	書店
	柱のない空間 ースポーツ・イベント・展示ホールー	日本建築学会	彰国社	1,937	空間構造デザイン研究室(569A)
建築構法 I	図説テキスト 建築構造 (構造システムを理解する)		彰国社	2,730	書店
	構造用教材	日本建築学会	日本建築学会	1,937	書店
建築構法 II	建築施工用教材	日本建築学会	三美印刷	1,995	ガイダンス時に案内
	構造用教材	日本建築学会	日本建築学会	1,937	
	図解テキスト 基本建築学	上杉 啓, 真鍋恒博 他	彰国社	4,410	
振動工学, 対地震構造	応答性能に基づく「対震設計」入門	石丸辰治	彰国社	4,830	ガイダンス時に案内
鋼構造	わかりやすい鉄骨の構造設計 第四版	日本鋼構造協会 編	技報堂出版	3,990	書店
	鋼構造設計演習	日本鉄鋼連盟	技報堂出版	4,935	書店
	鋼構造設計規準	日本建築学会 編	日本建築学会	5,040	日本建築学会, 書店
鉄筋コンクリート構造 I, II	コンクリート構造	本岡順二郎	彰国社	2,835	ガイダンス時に案内
	鉄筋コンクリート構造の設計 ー学びやすい構造設計		技報堂	5,250	書店
建築施工法, 建築積算	建築の施工と見積	建築の施工と見積研究会	彰国社	4,620	構造研究室 (568B)
地盤基礎工学 I, II	基礎構造の設計 ー学びやすい構造設計ー	日本建築学会関東支部	日本建築学会 関東支部	3,600	地盤基礎研究室(565B)
	建築基礎構造設計指針 (2001改定)	日本建築学会	日本建築学会	5,670	日本建築学会, 書店
構造設計法及び演習 I 構造設計 II	鉄筋コンクリート構造計算規準・同解説2010	日本建築学会	日本建築学会	6,720	日本建築学会, 書店
	建築学構造シリーズ 建築空間構造	皆川洋一 編著	オーム社	3,990	空間構造デザイン研究室(569A)
	構造設計論	佐藤邦昭	鹿島出版会	3,255	書店
	鋼構造設計規準	日本建築学会 編	日本建築学会	5,040	日本建築学会, 書店
測量及び実習	実用測量	伊澤倫一郎	理工図書	4,095	ガイダンス時に案内
構造解析法	エクセル有限要素法入門 骨組構造解析編	山下四郎, 田中寿美	山海堂	3,200	書店
デザイン基礎 建築設計 I	建築デザインの基礎 製図法から生活デザインまで	本杉省三, 佐藤慎也, 山中新太郎, 山崎誠子 他	彰国社	2,310	書店
建築法規 I	基本建築関係法令集 (法令編) 平成24年版	国土交通省住宅局建築指導課 建築技術者試験研究会 編	井上書院	2,940	書店もしくは指定された日に購入
建築法規 II	建築家の法律学入門	大森文彦 著	彰国社	1,995	ガイダンス時に案内
	建築工事の瑕疵責任入門	大森文彦 著	大成出版社	1,785	ガイダンス時に案内
建築計画 I・II	建築計画を学ぶ	建築計画教材研究会 編	理工図書	3,675	ガイダンス時に案内
	第3版 コンパクト建築設計資料集成	日本建築学会編	丸善	5,040	ガイダンス時に案内

科目名	書名	編著者名・訳者名など	発行所名	定価(税込)	取扱所
建築人間工学	建築設計資料集成 一人間	日本建築学会	丸善	9,870	書店
	建築人間工学事典	日本建築学会	彰国社	3,780	書店
	生活空間の体験ワークブック 人間工学からの環境デザイン	日本建築学会	彰国社	2,415	書店
	福祉住環境コーディネーター検 定試験2級公式テキスト改訂版	東京商工会議所	東京商工会議所	4,725	書店
設計計画 I	建築計画を学ぶ	建築計画教材研究会	理工図書	3,675	書店
	設計方法V	日本建築学会、建築計画委 員会、設計方法小委員会	彰国社	2,447	書店
	一設計方法と設計主体	池辺 陽	丸善	3,675	書店
	デザインの鍵 建築デザインと環境計画	柏原士郎 編著	朝倉書店	5,040	書店
設計計画 II	建築の言語 (ヴィジュアル 版建築入門)	小嶋一浩, 今村雅樹 他	彰国社	3,570	書店
	KEN YOKOGAWA Landscape and houses	横河 健	新建築社	5,250	書店
設計計画 III	場所の空間学	宇杉和夫	古今書院	未定	ガイダンス時に案内
	日本住宅の空間学	宇杉和夫	理工図書	3,200	書店
	事例で読む現代集合住宅 のデザイン	日本建築学会	彰国社	2,730	書店
	日本の空間認識と景観構成 見沼田んぼの景観学	宇杉和夫 宇杉和夫	古今書院 古今書院	11,200 2,600	書店 書店
ランドスケープデザイン	世界で一番やさしい 住宅用植栽	山崎誠子	エクスナレッジ	2,940	書店
	新・緑のデザイン図鑑	山崎誠子	エクスナレッジ	4,200	書店
建築史 I	日本建築図集	小林文次 他	相模書房	2,625	書店
	日本建築史序説	太田博太郎	彰国社	2,940	書店
建築史 II, III	図説 近代建築の系譜	大川三雄 他	彰国社	3,360	建築史・建築論研究室 (ガイダンス時に案内)
	日本の近代建築 (上, 下)	藤森照信	岩波新書	各651	書店
	図説 近代日本住宅史	大川三雄 他	鹿島出版会	3,360	書店
	建築モダニズム 近代和風を探る (上, 下)	大川三雄 他 大川三雄 他	エクスナレッジ エクスナレッジ	3,150 各1,470	書店 書店
建築史 IV	東洋建築史図集	日本建築学会 編	彰国社	3,255	書店
	新建築学大系 3 東洋建築史		彰国社	7,088	書店
都市計画 I, II	都市の計画と設計 第2版	小嶋勝衛 監修	共立出版	3,675	書店
	都市計画 第3版	日笠 端, 日端康雄	共立出版	4,095	書店
	初めて学ぶ都市計画	根上彰生 他	市ヶ谷出版	3,150	書店
都市デザイン	都市の計画と設計 第2版	小嶋勝衛 監修	共立出版	3,675	書店
	まちづくりデザインの プロセス	日本建築学会 編	丸善	1,995	書店
不動産企画 住環境デザイン 不動産開発プロジェクト	都市・建築・不動産企画 開発マニュアル2011-12	エクスナレッジ編集部	エクスナレッジ	5,040	書店

平成24年度 短期大学部建築・生活デザイン学科 履修要項

はじめに

本短期大学部は必要単位を取得することによって卒業が認められる。どの科目を選択するか（履修計画）については各自に自由が与えられるとともに責任が生じる。各々が必要な情報をしっかりと収集し、自分の将来設計を見据えて履修計画を練ることが肝要である。この履修要項の内容をよく理解し、「キャンパスライフ 一短期大学部要項」「時間割」を用いて履修計画を立てること。また、学科で作成している「Navigation for Students 一新生の手引き一」も熟読すること。履修登録や学園生活全般にわたり不明なことがあれば、遠慮することなくクラス担任（表1）に相談してほしい。

建築・生活デザイン学科における卒業最低条件は、表2に示すように必修科目単位を含めて合計62単位（総合教育科目12単位以上、専門教育科目32単位以上、科目区分によらない任意の単位18単位以上）を取得しなければならない。これは、短期大学部の教育理念が完成教育を目指したものであり、諸君の勉学が偏ることなく建築全般にわたって学習できるようにしたものである。本稿では履修計画を立てる際に知っておいてほしい諸制度〔成績評価、GPA（グレード・ポイント・アベレージ）制度、履修科目の登録単位数の上限、単位互換制度、科目等履修生制度、学芸員課程、履修コースの選定、専攻分野と科目ユニット〕について概説する。

成績表の表記について

本短期大学部における成績はGPA制度によって表される。成績表にはS、A、B、C、D、N（S：90点以上、A：80点以上、B：70点以上、C：60点以上、D：59点以下、N：認定）と表記される（表3参照）。また、学期GPA、年間GPA、累積GPA（次節参照）が記載される。なお、成績証明書にはD（59点以下）は表記されず、累積GPAのみの記載となる。

GPA（グレード・ポイント・アベレージ）制度について

GPA制度は、各自の学修成果を客観的に数値で表したものであり、日頃の学修成果を確認することができる。計算方法は以下の通りである。

- ①各取得科目の成績評価に従い、グレード・ポイントを与える（表3参照）。
- ②各取得科目のグレード・ポイントに単位数を乗じてそれらの総和を取り、履修登録した科目の総単位数で割ったものをGPA（グレード・ポイント・アベレージ）とする（(1)式と表4参照）。表4の例では、GPAは $19/9 = 2.11$ となる。

$$GPA = \frac{(\text{科目で得たグレード・ポイント} \times \text{科目の単位数}) \text{の総和}}{\text{履修登録したすべての科目の総単位数}} \quad (1)$$

表1 クラス担任

学年	氏名	研究室	電話番号(内線)
1年	佐藤 秀人	船橋校舎 9号館 926・B	047-469-(5433)
	羽入 敏樹	船橋校舎 6号館 622・A	047-469-(5263)
2年	田所辰之助	船橋校舎 5号館 545・B	047-469-(5566)
	矢代 眞巳	船橋校舎 5号館 546・A	047-469-(5819)

表2 卒業に必要な単位

科目区分		卒業要件単位数	
総合教育科目	必修科目（1科目）	2	
	選択科目	10	
専門教育科目	必修科目（5科目）	6	
	選択科目	専門教育部門A・B・Cのいずれか1分野	10
		その他	16
科目区分によらない任意の単位		18	
総計		62	

表3 成績表上の表記とグレード・ポイント

成績表上の表記	グレード・ポイント	
90点以上	S	4
80点以上	A	3
70点以上	B	2
60点以上	C	1
59点以下	D	0
認定	N	—

GPAには学期ごとに履修登録した科目と修得した科目から算出される学期GPAと現在までに履修登録した科目と修得した科目から算出される累積GPAがある。また、GPAの計算に含まれない科目は以下の通りである。

- 1) 履修中止を行った科目
- 2) 卒業要件単位数に算入することのできない授業科目(部外単位)
- 3) 理工学部の科目等履修生・教職課程科目の単位

GPAは次に述べる履修科目の登録単位数の上限緩和にも関わるのでよく確認しておく必要がある。

履修科目の登録単位数の上限

学期ごとに履修登録できる単位数には上限が設けられており、1年次前学期は29単位、1年次後学期および2年次前・後学期は25単位となる。また、各年次のサマーセッション(夏季集中授業)とスプリングセッション(春季集中授業)では別枠で、それぞれ6単位を上限に履修登録することができる。

ただし、直前の学期GPAが2.5以上であり、かつ直前学期での修得単位数のうち卒業要件に算入することのできる単位数が21単位以上であれば、次学期の履修登録の上限は29単位となる。

4月当初の履修計画は、履修する科目の登録単位数の上限を超えないように、かつ所要の科目が履修できないということがないように気をつけること。なお、卒業要件に算入することのできない授業科目の登録単位は、上限単位数には含まないものとする。

単位互換制度

本短期大学部生が日本大学理工学部の開設科目の一部を履修できるという制度である。履修に際しては、どの科目が開講されているか教務課もしくはクラス担任に開設科目を問い合わせ、受講する場合には、指定用紙に科目担当師の承諾印をもらい、教務課に提出する必要がある。なお、単位互換制度によって取得した単位を卒業に必要な単位として算入できるかについてはクラス担任に確認の上、履修登録すること。

科目等履修生制度

科目等履修生制度とは、大学入学資格を有する人が、大学および短期大学の特定の授業科目を履修することが

できる制度である。そのため、科目等履修生制度を利用して他学部の講座を受講するためには、教務課またはクラス担任に開講科目、申請要領を確認し、指定期日までに受講申請をしなくてはならない。また受講に際し審査があり、受講許可された科目に対して、指定された授業料を納めることによって受講が可能となる。なお、教職課程科目もこの制度を利用して受講することになる。教職課程科目については別途ガイダンスがあるので、履修希望者は指定された期日に必ずガイダンスに参加すること。

学芸員課程

学芸員とは博物館法第4条第4項「博物館資料の収集、保管、展示及び調査研究その他これに関する事業についての専門的事項をつかさどる」と定められており、専門職員として博物館などの事業に携わるために必要な資格である。平成17年度より理工学部に学芸員課程が設置された。短期大学部生は理工学部に編入学が決定した者が受講可能となる。学芸員課程については年度初めに「学芸員ガイダンス」が開かれる。希望者はガイダンスに参加すること。

科目ユニット

建築・生活デザイン学科では、履修計画の一助として科目ユニットを設けている。科目ユニットとは目的や内容が類似した複数科目をまとめたもので、科目ユニット内の単位をすべて修得すると、その科目ユニットがもつ専門性が身に付く。科目ユニットは、一部を除き基本的には1年後期からの設置となる。なお、各科目ユニットの特徴については「キャンパスライフ 一短期大学部要項一」を参照すること。

専攻分野と科目ユニット

本短期大学部を卒業すると学位記には主専攻分野が明記される。そのため卒業の条件として、建築デザイン分野、建築エンジニアリング分野、生活デザイン分野のいずれかの分野から10単位以上を修得しなければならない(表5参照。卒業判定時において10単位以上を修得した専門分野が複数あれば、本人の希望により卒業時の主専攻分野を選択できる)。この条件を満たすために、少なくとも同一の分野から2ユニット内のすべての科目を履修することを推奨する。

なお、1年前期設置の共通専門科目は、科目ユニットとして位置づけられていないが、建築・生活デザイン学科の共通の基本科目となるので履修することを推奨する。

表4 GPA算出の例

科目名	単位数	評価	グレード・ポイント	単位数×グレード・ポイント
日本語表現法 I	1	A	3	3
英文読解 I	1	C	1	1
物理 I	2	B	2	4
微分積分 I	2	S	4	8
思想史	2	D	0	0
スポーツ I	1	A	3	3
計	9			19

表5 専門教育科目

部門	分野	1年次		2年次		履修要件
		前学期	後学期	前学期	後学期	
必修		入門ゼミナール (1)	基礎ゼミナール (1)	発展ゼミナール (1)	卒業研究 (2)	
		情報リテラシ (1)				
共通基礎教育		微分積分 I (2)	微分積分 II (2)	微分方程式 (2)	数理統計 (2)	
		行列と行列式 (2)	線形代数 (2)	物理演習 (1)		
共通専門教育		数学演習 I (1)	数学演習 II (1)			
		物理 I (2)	物理 II (2)			
共通専門教育		物理実験 I (1)	物理実験 II (1)			
		建築計画の基礎 (2)				
共通専門教育		建築・生活デザインの基礎 (2)				
		建築構法の基礎 (2)				
共通専門教育		建築環境の基礎 (2)				
分野別専門教育	A. 建築デザイン		欧米の建築史 (2) 建築計画 I (2) 建築法規 (2) 建築デザインスタジオ I (2)	日本・アジアの建築史 (2) 建築計画 II (2) 都市デザイン (2) 建築デザインスタジオ II (2)	現代建築論 (2) ランドスケープデザイン (2) まちづくりデザイン (2) 建築デザインスタジオ III (2)	分野別専門教育部門のうち、いずれか1分野のうちから10単位以上を修得し、必修科目を含めて32単位以上を修得しなければならない。
	B. 建築エンジニアリング	建築数学の基礎演習 (1) 建築基礎実験 I (1) 建築基礎実験 II (1)	建築力学 I (2) 建築材料力学 I (2) 建築材料 I (2) 建築地域環境 (2) 建築気候 (2)	建築力学 II (2) 建築材料力学 II (2) 建築材料 II (2) 建築各種構法 (2) 建築音環境 (2) 建築環境実験 (1) 情報処理 (1)	建築生産実験 (1) 建築施工法 (2) 建築設備 (2) 建築情報処理 (1)	
	C. 生活デザイン	ものづくりワークショップ (1)*	建築人間工学 (2) 色彩計画 (2) 美術・デザイン史 (2) 造形デザイン演習 (1)	福祉住環境計画 (2) インテリア計画 I (2) メディアデザイン演習 (1)	建築ユニバーサルデザイン (2) インテリア計画 II (2) プロダクトデザイン (2)	
キャリア・職業教育		ものづくりインターンシップ (1)*	キャリアデザイン (2)	建築キャリアデザイン I (1)	建築キャリアデザイン II (1)	
				技術者倫理 (2)		
		合計 (23)	合計 (36)	合計 (32)	合計 (25)	

* サマーセッション科目

短期大学部建築・生活デザイン学科 専門科目使用教科書並びに参考書

(教科書は太字, その他は主要参考書)

科目名	書名	編著者名・訳者名など	発行所名	定価(税込)	取扱所
建築・生活デザインの基礎	新・設計基礎 (計画・製図・模型・写真) 建築計画・設計シリーズ42	高木幹朗 他	市ヶ谷出版社	2,520	書店
建築計画の基礎	建築計画基礎：計画の原点を学ぶ	吉村英祐 他	学芸出版社	3,150	書店
建築計画 I	住宅の計画学入門	岡田光正 他	鹿島出版会	2,520	書店
建築計画 II	設計に活かす建築計画	内藤和彦 他	学芸出版社	2,520	書店
建築法規	建築関係法令集 (法令編) 平成23年版	総合資格学院 編	総合資格	2,940	書店 (蔵翠堂)
都市計画概論	都市の計画と設計「第2版」	小嶋勝衛 監修	共立出版	3,465	岡田研究室
建築史 I	中世日本建築工史	浜島一成	相模書房	3,360	ガイダンス時に指示
	日本建築史序説	太田博太郎	彰国社	2,940	書店

なお、1年前期設置の共通専門科目は、科目ユニットとして位置づけられていないが、建築・生活デザイン学科の共通の基本科目となるので履修することを推奨する。

表4 GPA算出の例

科目名	単位数	評価	グレード・ポイント	単位数×グレード・ポイント
日本語表現法 I	1	A	3	3
英文読解 I	1	C	1	1
物理 I	2	B	2	4
微分積分 I	2	S	4	8
思想史	2	D	0	0
スポーツ I	1	A	3	3
計	9			19

表5 専門教育科目

部門	分野	1年次		2年次		履修要件
		前学期	後学期	前学期	後学期	
必修		入門ゼミナール (1)	基礎ゼミナール (1)	発展ゼミナール (1)	卒業研究 (2)	
		情報リテラシ (1)				
共通基礎教育		微分積分 I (2) 行列と行列式 (2) 数学演習 I (1) 物理 I (2) 物理実験 I (1)	微分積分 II (2) 線形代数 (2) 数学演習 II (1) 物理 II (2) 物理実験 II (1)	微分方程式 (2) 物理演習 (1)	数理統計 (2)	
		共通専門教育				
分野別専門教育	A. 建築デザイン		欧米の建築史 (2) 建築計画 I (2) 建築法規 (2) 建築デザインスタジオ I (2)	日本・アジアの建築史 (2) 建築計画 II (2) 都市デザイン (2) 建築デザインスタジオ II (2)	現代建築論 (2) ランドスケープデザイン (2) まちづくりデザイン (2) 建築デザインスタジオ III (2)	分野別専門教育部門のうち、いずれか1分野のうちから10単位以上を修得し、必修科目を含めて32単位以上を修得しなければならない。
	B. 建築エンジニアリング	建築数学の基礎演習 (1) 建築基礎実験 I (1) 建築基礎実験 II (1)	建築力学 I (2) 建築材料力学 I (2) 建築材料 I (2) 建築地域環境 (2) 建築気候 (2)	建築力学 II (2) 建築材料力学 II (2) 建築材料 II (2) 建築各種構法 (2) 建築音環境 (2) 建築環境実験 (1) 情報処理 (1)	建築生産実験 (1) 建築施工法 (2) 建築設備 (2) 建築情報処理 (1)	
	C. 生活デザイン	ものづくりワークショップ (1)*	建築人間工学 (2) 色彩計画 (2) 美術・デザイン史 (2) 造形デザイン演習 (1)	福祉住環境計画 (2) インテリア計画 I (2) メディアデザイン演習 (1)	建築ユニバーサルデザイン (2) インテリア計画 II (2) プロダクトデザイン (2)	
	キャリア・職業教育	ものづくりインターンシップ (1)*	キャリアデザイン (2)	建築キャリアデザイン I (1)	建築キャリアデザイン II (1)	
		合計 (23)	合計 (36)	合計 (32)	合計 (25)	

* サマーセッション科目

短期大学部建築・生活デザイン学科 専門科目使用教科書並びに参考書

(教科書は太字, その他は主要参考書)

科目名	書名	編著者名・訳者名など	発行所名	定価(税込)	取扱所
建築・生活デザインの基礎	新・設計基礎 (計画・製図・模型・写真) 建築計画・設計シリーズ42	高木幹朗 他	市ヶ谷出版社	2,520	書店
建築計画の基礎	建築計画基礎：計画の原点を学ぶ	吉村英祐 他	学芸出版社	3,150	書店
建築計画 I	住宅の計画学入門	岡田光正 他	鹿島出版会	2,520	書店
建築計画 II	設計に活かす建築計画	内藤和彦 他	学芸出版社	2,520	書店
建築法規	建築関係法令集 (法令編) 平成23年版	総合資格学院 編	総合資格	2,940	書店 (巖波堂)
都市計画概論	都市の計画と設計「第2版」	小嶋勝衛 監修	共立出版	3,465	岡田研究室
建築史 I	中世日本建築工史	浜島一成	相模書房	3,360	ガイダンス時に指示
	日本建築史序説	太田博太郎	彰国社	2,940	書店

科目名	書名	編著者名・訳者名など	発行所名	定価(税込)	取扱所
建築史Ⅱ 欧米の建築史	西洋建築史図集 マトリクスで読む 20世紀の空間デザイン	日本建築学会 編	彰国社	2,625	書店
		矢代眞己, 田所辰之助, 濱寄良実	彰国社	2,625	書店
デザイン論	マトリクスで読む 20世紀の空間デザイン 図説 近代建築の系譜	矢代眞己, 田所辰之助, 濱寄良実 大川三雄 他	彰国社 彰国社	2,625 3,360	田所研究室 (545B) 田所研究室 (545B)
建築構法の基礎	建築学テキスト 建築構法 建築物のしくみを学ぶ	武田雄二 他	学芸出版社	3,360	書店
木構造および鋼構造	3階建てまでできる 一記入式2×4の構造設計入門	鈴木雄司	彰国社	3,150	ガイダンス時に指示
建築材料Ⅰ, Ⅱ	最新建築材料学	松井 勇, 出村克宣, 湯浅 昇, 中田善久	井上書院	3,150	建築教室事務室(915)
建築材料力学Ⅰ 応用力学Ⅰ	建築材料力学	榎並 昭	彰国社	2,783	ガイダンス時に指示
応用力学演習Ⅰ, Ⅱ	応用力学演習問題解析法	西村敏雄	理工図書	4,935	ガイダンス時に指示
建築力学Ⅰ	建築構造力学 上	構造力学研究会	理工図書	3,150	ガイダンス時に指示
構造力学Ⅱ	建築構造力学 上	構造力学研究会	理工図書	3,150	ガイダンス時に指示
構造力学演習Ⅱ	建築構造力学演習 (上巻)	齋藤謙次	理工図書	1,837	ガイダンス時に指示
構造力学Ⅲ	建築構造力学 下	構造力学研究会	理工図書	3,150	ガイダンス時に指示
構造力学演習Ⅲ	建築構造力学演習 (下巻)	齋藤謙次	理工図書	1,837	ガイダンス時に指示
構造デザイン	空間 構造 物語	斎藤公男	彰国社	3,780	黒木研究室 (921B)
	建築構造のしくみ	川口 衛 他	彰国社	2,625	黒木研究室 (921B)
	図解事典 建築のしくみ	斎藤公男	建築図解事典編集委員会 編	3,990	黒木研究室 (921B)
鉄筋コンクリート構造 土質力学及び基礎構造	コンクリート構造 地盤工学入門	本岡順二郎 地盤工学会 編	彰国社 地盤工学会	2,835 3,675	ガイダンス時に指示 書店
建築施工法	建築施工用教材	日本建築学会	日本建築学会	1,995	書店
建築気候	最新 建築環境工学	田中俊六 他	井上書院	3,150	書店
	建築環境工学用教材 環境編	日本建築学会 編	日本建築学会	1,937	書店
	住宅の環境設計データブック	日本建築学会 編	丸善	3,150	書店
環境工学Ⅱ	建築音響と騒音防止計画	木村 翔	彰国社	3,570	羽入研究室 (622A)
建築設備概論	建築環境工学用教材 環境編	日本建築学会 編	日本建築学会	1,937	書店
	建築設備学教科書 新訂第二版	建築設備学教科書研究会	彰国社	3,780	書店
	建築環境工学用教材 設備編	日本建築学会 編	日本建築学会	1,937	書店
福祉住環境概論	生活環境論入門	徳田良英 著	DTP出版	2,835	ガイダンス時に指示
	Media 5 Premier V 福祉住環境コーディネーター検定試験2・3級 Windows DVD-ROM	徳田良英 監修・解説	メディアファイブ	10,290	
建築ユニバーサルデザイン論	福祉住環境コーディネーター検 定試験3級公式テキスト改訂版	東京商工会議所 編	東京商工会議所	2,625	書店
	福祉住環境コーディネーター検 定試験2級公式テキスト改訂版	東京商工会議所 編	東京商工会議所	4,725	書店
	子どもを事故と犯罪から 守る環境と地域づくり	野村 歡, 八藤後 猛 他	中央法規出版	2,310	書店
障害者支援論	福祉住環境コーディネーター 検定試験3級公式テキスト	東京商工会議所 編	東京商工会議所	2,625	書店
	福祉住環境コーディネーター 検定試験2級公式テキスト	東京商工会議所 編	東京商工会議所	4,725	書店
	〔図解〕高齢者・障害者を考えた建築設計 障害者が居住する住宅の設計資料集	榎崎雄之	井上書院	3,150	書店
		国土交通省住宅局住宅総合整備課 監修	ぎょうせい	2,095	書店
人間工学	Ergonomics for beginners	J.Dul and B.Weerdmeester	Taylor&Francis		ガイダンス時に指示
情報処理	世界でいちばん簡単な Excel VBAのe本 最新第2版	道用大介	秀和システム	1,470	書店
建築企画概論	都市・建築・不動産・企画開発マニュアル		イクスナレッジ	5,145	ガイダンス時に指示
海洋建築概論	海と海洋建築	前田久明, 近藤健雄, 増田光一	成山堂	4,830	大塚研究室 (545A)
	海と科学	柳 哲雄	恒星社	1,995	書店
	地球の海と気候	寺本俊彦	御茶ノ水書房	840	書店



SHUNKEN 2012-03 39-05

駿建

2012年卒業おめでとう号 Vol.39 No.5 日本大学理工学部建築学科 日本大学短期大学部建設学科



ご卒業おめでとうございます。
燃えたる情熱とクールな判断力、柔軟な肉体を保ちながら、大きく飛翔されることを期待します。自慢話がしたくなったら、いつでも遊びに来てください。

岡田 章教授・建築学科教室主任

岡田 章



卒業おめでとう。
一日一日を大切に、地道な努力の積み重ねによって人生を切り拓いてください。
健闘を祈ります。

安達俊夫教授

安達 俊夫



卒業おめでとうございます。
最近の若者は元気、覇気、やる気がないと言われていますが、そんなことはないことを4月からの職場で見せてくれると確信しております。
頑張ってください。

池田耕一教授

池田 耕一



卒業おめでとうございます。皆さんは、これまで「知識」の世界で勝負し、評価されてきたかもしれませんが、社会に出ると、今度は「知恵」の世界で勝負していかねばならないでしょう。いっそうの知識の吸収と幅広い情報の収集に努め、的確な判断力とユニークな創造力を養うよう努力してください。皆さんの健闘を祈ります。

井上勝夫教授

井上 勝夫



卒業おめでとうございます。
大学で学んできた基礎知識、そして明日からの実務で培われる応用的な専門知識とによって、君たちの未来は作り上げられます。
素晴らしい日本、そして地球・宇宙を創造する専門家として羽ばたいてください。

今村雅樹教授

今村 雅樹



卒業おめでとう！
これからは、理想の「建築と街」づくりをめざす同士の間柄です。何か、お役に立てることがあったら、声をかけてください。皆さんの社会での活躍を期待しています。

大川三雄教授

大川 三雄



どのような分野に進むにせよ「大学で建築を学んで良かった！」と思えるような人生になるといいですね。
これからも建築を愛して、建築について考え続けてください。
卒業おめでとうございます。

佐藤光彦教授

佐藤 光彦



卒業おめでとうございます。
卒業生は学生としてではなく、社会人としておつき合いすることになります。後輩たちに社会の「生の声」を伝えるため、できるだけ大学に足を運んでください。

重枝 豊教授

重枝 豊



卒業おめでとう。
今後の希望に満ちた人生設計にあたり、理想はあくまでも高く、しかし技術者としての地味な努力を忘れず、国際社会や地球環境との共生に貢献できる社会人として成長されることを望みます。

白井伸明教授

白井 伸明



卒業おめでとうございます。
これから卒業して社会人になるのに希望や不安が混在している時期だと思います。「勇気」をもって立ち向かっていってください。頑張っていれば必ず結果は付いてきます。「継続は力なり」です。ご健闘をお祈りします。

中田善久教授

中田 善久



卒業おめでとうございます。
これからの都市づくりは、みなさんの肩にかかっています。困難も多いと思いますが、自信と希望を持って大いにご活躍ください。期待しています。

根上彰生教授

根上 彰生



卒業おめでとうございます。
これからの人生の問題には、正解というものはありません。しかしまた、悩み抜いた末に解答が見つからない問題もありません。未来はあなたの方の努力次第です。ご健闘をお祈りします。

古橋 剛教授

古橋 剛



三橋博巳教授

卒業おめでとう。
社会に出ても大きな夢と希望を持って努力され、飛躍されんことを期待します。

三橋博巳



佐藤慎也准教授

卒業おめでとうございます。
また、いつかどこかで会いましょう。

佐藤 慎也



本杉省三教授

「人生は自分自身への道だ」とドイツの詩人、
ハインリッヒ・ハイネは言っています。長いよ
うでいて短い時間、どれだけ真剣に物事に
取り組めるか、これらが勉強の本番です。先延ば
しせず着実に積み重ねていくことの大切さが実
感できるはずですよ。

本杉省三



橋本 修准教授

ご卒業おめでとうございます。
理想を高く掲げて、常に刺激を求めながら、自
分の感性を養う努力をしましょう。新たな出
会いを大切にし、情報や活動のネットワークを
広げるよう努力してください。

橋本 修



横内憲久教授

卒業おめでとう！
まず、親に感謝、友に感謝、そして少し先生に
感謝をしましょう。大学はひたすら吸収の場
でしたが、社会は放出の場となります。アイ
デアを、情報を、汗を、創造力や想像力に
乗せて出すのです。動き回る狼は、動
かない獅子に勝ります。頑張れ。

横内憲久



八藤後 猛准教授

荒波の中の船出になりましたね。提案ですが、
長い航海において、まずは自分本位でかま
わないので、あなた自身が幸せになれる
方法を選んでみてください。自分が幸
せでない人が、人を幸せにできると思
いますか。気をつけて、行ってらっ
しゃい。

八藤後 猛



横河 健教授

卒業おめでとうございます。
君たちの未来は明るい。しかし、喜びは苦
しみの先にしか本当の喜びはないの
です。喜びは限界の先にあります…。
明日が明るいとなれば君自身が限界
をつくらないからでしょう。

横河 健



山田雅一准教授

卒業おめでとうございます。
“心と技”を磨いて、いつも前向き
の姿勢で事に当たってください。

山田 雅一



金島正治教授 (研究所)

卒業おめでとうございます。
大学でたくさんの友達をもてたことは幸
い事です。これからの人生、共に語り
合える仲間を意識しながら活躍
ください。

金島 正治



渡辺富雄准教授

卒業おめでとうございます。
今度はお互いに社会人としてまたど
こかで会いましょう。
皆さんの活躍を期待しています。

渡辺 富雄



宇於崎勝也准教授

卒業おめでとうございます。
社会の中で出会う人・事・モノ、いろ
いろなことに興味を持って、明るく、
楽しく、元気に、がんばってください。

宇於崎 勝也



川島和彦専任講師

卒業おめでとうございます。
出会いは奇跡であり、運命であると思
います。出会いから始まる人間関係を
大切に、信頼される人間に成長して
ください。そのためには、もちろん
努力も必要です。皆さんのご活躍を
期待しています。

川島 和彦



宇杉和夫准教授

生活空間と建築に対する広い視野と地
に合った視点をもって、建築界で、そ
して社会で活躍されることを期待
します。

宇杉 和夫



田嶋和樹助教

卒業おめでとうございます。
刻々と流れていく時間のなかで、自
分の人生に自らの意思を反映させて
ほしいと思います。そのためには、
自分に自信を持ちましょう。でも、
自分を信じるためには、その裏づけ
となる努力が必要であることを
忘れないように。

田嶋 和樹



富田隆太助教

人との出会いは、何事にも代えられない貴重な宝物だと思います。また、周りに流されず、自分の行動を冷静に判断することも重要です。是非、挨拶を心がけて、頑張ってください。卒業おめでとうございます。

富田隆太



王 岩助手

ご卒業おめでとうございます。これから、夢をもって、自信をもって前に進んで、次のステージでのご活躍、ご成功をお祈りします。

王岩



秦 一平助教

ご卒業おめでとうございます。これからいろいろな“壁”を越えなくてはいけない時が、必ず来ると思います。その“壁”を自分自身で乗り越えられるような立派な社会人になることを願っております。皆さんのこれからの活躍を期待しています。

秦 一平



小島陽子助手

なんにだってなれる
どこへだって行ける

ご卒業おめでとうございます

小島陽子



蜂巢浩生専任講師

卒業おめでとうございます。これからいろいろなチャンスに巡り合うことでしょう。大切なことは、それを有効に使うこと。恐れてばかりいないで、前向きに取り組んでください。

蜂巢浩生



西脇 梓助手

卒業おめでとうございます。理屈を超えて好きなこと、夢中になれることを大切にしてください。皆さまのご活躍を期待しています。

西脇梓



宮里直也助教

おめでとうございます。人との出会い、コミュニケーションを大切にしてください。笑顔で楽しんでください。これからの活躍を期待しています。また、いつでも研究室まで足を運んでください。

宮里直也



廣石秀造助手

卒業おめでとうございます。これからもいろいろなことに興味をもって、毎日を楽しんでください。

廣石秀造



山崎誠子助教

卒業おめでとうございます。これから出会うすべてのことに興味と感謝をもって進んでください。出会いは偶然ではなくて必然です。日本人としてだけでなく地球人として大きく生きよう！

山崎誠子



栗原のり子副手 (教室事務室)

ご卒業おめでとうございます。皆さんの今後の活躍に期待しています。

栗原のり子



山中新太郎助教

卒業おめでとうございます。これからのみなさんの活躍を楽しみにしています。人との関係を大切に、自分の長を活かすような生き方をしてください。

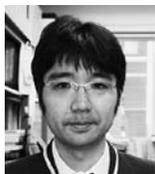
山中新太郎



矢萩有美子副手 (教室事務室)

卒業おめでとうございます。社会に出ても常に自分を見失わず、夢と希望を持って頑張ってください。

矢萩有美子



石鍋雄一郎助手

ご卒業おめでとうございます。社会に出てしばらくは地味な仕事に明け暮れることになるかと思いますが、学ぶことをやめずに努力すれば大きな飛躍の機会がきっと訪れます。「果報は“練って”待て」です。寝て待ってはいけません。

石鍋雄一郎



卒業おめでとうございます。
いつでも夢を！
いつまでも情熱を！
御活躍を期待します。

小石川正男教授・短大建設学科長

小石川正男



卒業おめでとうございます。
どんな時も自分の可能性を信じ、夢を持ちつづけてください。
Imagine, you can do it.

羽入敏樹准教授

羽入 敏樹



My Way !

黒木二三夫教授

黒木二三夫



卒業おめでとうございます。
HISTORIA MAGISTRA VITAE
——歴史は人生の師なり
日大で刻んだ時を忘れることなく、学んだことを糧にしながら、それぞれに人生の新しい頁を加えていってください。Bon Voyage!

矢代眞己准教授

矢代眞己



Tomorrow「明日があるさ!」ではなく、明日のために日々の努力を忘れずに、そして壁にぶつかったら思い出してほしい言葉——「艱難汝を玉となす」。
卒業おめでとう。

下村幸男教授

下村幸男



卒業おめでとう。
人生、うまくいかないこともあります。
そんな時は、未来の自分をイメージしてみてください。
お互いに頑張りましょう!!

酒匂教明専任講師

酒匂 教明



鳥瞰パースの視点もて
鳥瞰とは“birds eye”のこと 鳥のように高い視点を持ち “いつでも通過点”と考え立ち止まらない好奇心で この逆境に挑みたいもの「時・場所・人」を問わず必要とされる 物事の真実、本質を見抜く力“wisdom”をつかんでください。

吉野泰子教授

吉野 泰子



卒業おめでとうございます！
皆さんの目の前には、無限の可能性が広がっています。
前を向いて進むべき道を突き進んでください。
ご活躍期待しております。

保坂裕梨助手

保坂 裕梨



卒業おめでとう。
「日大卒」に自信と誇りをもって頑張ってください。
母校への応援もよろしくお願ひします。

佐藤秀人准教授

佐藤秀人



Stay Hungry.
Stay Foolish.

星 和磨助手

星 和磨



良き問いは、良き答えよりもすぐれている、という言葉があります。時代の転換期、問題を提起する力がますます必要となるでしょう。しなやかな感性を、大事に育てていってください。

田所辰之助准教授

田所 辰之助



ご卒業おめでとうございます。
時間を共有した仲間との思い出。夢を実現するための意思。最後まであきらめない努力。やさしい心と強い信念を持ち続けてください。皆様のご活躍を心から祈念しています。

高田康史助手

高田 康史

平成23年度 各賞受賞者一覧

優等賞*1 (学部・短期大学部)

渡部 俊宗
山根 康孝
尾崎 俊介
山崎 周拓

登坂遼太郎
清水 信真
能勢 摩耶
安松 哲生

石田 安澄
嶋田 健志 (短期大学部)
山田 航平 (短期大学部)

齋藤賞*2 (大学院)

〈修士論文〉 井田 啓介 鉛直振動に対する床の振動性能評価に関する研究 指導：井上勝夫教授
廣谷 直也 地盤特性を考慮した D.M. を用いた構造物の制震性能に関する基礎的研究 指導：古橋 剛教授、秦 一平助教

吉田鉄郎賞*3 (大学院)

〈修士論文〉 川鍋 充範 路面電車利用者の中心商店街における回遊行動に関する研究
広島市における路面電車利用者の行動特性と中心商店街の空間構成に着目して 指導：根上彰生教授、川島和彦専任講師
〈修士設計〉 永嶋 竜一 教育校群「新千歳小学校」 2つの前期校と1つの後期校から構成される新しい小学校の計画 指導：佐藤光彦教授、山中新太郎助教

駿建賞*4 (大学院)

〈修士論文〉 濱津 徹平 公営住宅の集会所および空き住戸の活用が地域に及ぼす効果に関する研究
大阪府および大阪市の事例に着目して 指導：根上彰生教授、川島和彦専任講師
〈修士設計〉 森本 栄貴 地方都市中心市街地における寺院境内の再構築
浄土真宗大谷派金沢別院境内をモデルとした学習・療養空間の設計 指導：佐藤光彦教授
今野 和仁 丸の内3.5次地区更新計画
新東京ビル街区建て替え計画を活用した自立型業務都市の提案 指導：横河 健教授
土川菜々子 都市計画道路整備事業に伴う下北沢駅前構想計画
既存の都市空間を継承した複合建築の設計 指導：佐藤光彦教授

駿構賞*5 (大学院)

〈修士論文〉 坂本 英之 せき板の転用によるコンクリート表面の品質変化とこれを考慮した目的指向型枠工事計画の提案 指導：中田善久教授
松田 歩弓 連結したホルン型張力膜構造の風応答性状に関する研究 指導：岡田 章教授
朝枝 亮太 エネルギーの釣合に基づく液状化地盤の損傷評価に関する研究
東京湾岸における液状化被害の調査及び沈下量の評価 指導：安達俊夫教授

桜建賞*6 (学部・短期大学部)

〈卒業研究〉 岩崎 和真・田中 真央・千葉 峻樹 パーソナルスペースと空間内の明るさ分布の関係性
明るさ分布のコントラストとシルエット現象の影響 指導：橋本 修准教授
石田 安澄 超高層免震建物の簡易設計法に関する基礎的研究
免震部材の引抜面圧を基準とした逆設計法 指導：秦 一平助教
大辻 浩輔 コンクリート強度管理用供試体の違いが応力-ひずみ曲線に及ぼす影響 指導：中田善久教授
安樂 駿作 建築家・葛西萬司の建築観と設計活動にみる特徴 指導：大川三雄教授
河野 琢磨 港湾機能再編における「みなとまちづくり」に関する研究
静岡県清水港日の出地区における地域資源の抽出 指導：横内憲久教授
〈卒業設計〉 丹下 幸太 transfiguration 指導：佐藤光彦教授
〈短期大学部 卒業制作〉 土屋慧利子 おもしえ時間 山居倉庫と歩む地域の絆画 指導：小石川正男(短大)教授
羽鳥 愛美・宮田あゆみ・矢代麻佑子 Interior of Water 指導：羽入敏樹(短大)准教授

奨励賞*7 (大学院・学部)

〈修士論文〉 阪本 一生 大断面集成材を用いた木造建築物の重量床衝撃音対策方法の検討 指導：井上勝夫教授
西尾 淳 実被害状況に基づく損傷スペクトルを用いた既存 RC 建造物の耐震性能評価法 指導：白井伸明教授
野村雄一郎 サッカースタジアムに関する基礎的研究
国内のクラス S の 12 のサッカースタジアムを事例として 指導：渡辺富雄准教授
〈卒業設計〉 野田 香織 HIGATA concealer 谷津干潟における新しい観察スペースの提案 指導：今村雅樹教授

駿優賞*8 (学部)

〈卒業研究〉市川 恵理 動物園におけるランドスケープイマージョンの現状と一考察
よこはま動物園ズーラシアにおけるケーススタディ

指導：山崎誠子助教

駿建コンペティション業績賞*9 (大学院)

中村 隆志

横河研究室

桜工賞*10 (大学院・学部・短期大学部)

〈大学院・学部〉土川菜々子・三平 奏子・茂木 香織・西島 慧子

「2010年地球にやさしい住生活コンペティション」協賛企業賞受賞

佐藤光彦研究室、山中研究室、今村研究室、佐藤慎也研究室

西尾 淳 第33回コンクリート工学講演会年次論文奨励賞受賞

白井研究室

坂本 英之・廣谷 直也・秋山 良・芦川 雄郁・大辻 浩輔・宮田 敦典・手島 基

東北地方太平洋沖地震に係る陸前高田市における災害調査およびボランティア活動

中田研究室、古橋・秦研究室

池上 晃司・鈴木康二郎・高橋 雄也・田中麻未也・土川菜々子・山中 友希・森本 栄貴

「八幡山アートプロジェクト」最優秀賞受賞

佐藤光彦研究室

黒瀬 優・田中美菜子・小林 聡

卒業アルバム委員としてアルバム製作において中心的な役割を果たした

岡田研究室

山本 匡希・斎藤 大亮・町田 昂弘

東日本震災復興支援イベント環境技術研究機構主催「大樹町メムサミット・学生のための住宅デザインコンペティション」入賞

今村研究室

山本 匡希・伊藤 舞

NPO 日中交流推進機構主催東日本震災復興会津サマーボランティア活動『元氣福島 Project』にて他大学（早大、東大、立教大、千葉大など）の学生たちと協力したプロジェクトで委員長として行動した

今村研究室

〈短期大学部〉清水 悠生 クラスの精神的リーダーとして活躍した

短期大学部

不動産科学専攻研究奨励賞*11 (大学院不動産科学専攻)

瀬畑 尚紘 歴史的観光都市「鎌倉」における「徒歩観光」構築に関する研究 「通り」の空間特性に着目して

指導：横内憲久教授、岡田智秀准教授、押田佳子助教

谷口 博城 減築を用いた商店街活性化のための整備手法に関する研究

指導：横内憲久教授、岡田智秀准教授

日本環境管理学会・木村賞*12 (大学院不動産科学専攻)

板里 卓哉 緑地景観保全・創出方策としての景観グリーンチェーン構築に関する研究

指導：横内憲久教授、岡田智秀准教授、押田佳子助教

小嶋賞*13 (大学院不動産科学専攻)

史 斌 中国におけるリバース・モーゲージ制度導入に関する研究 高齢化社会の到来に備えて 指導：根上彰生教授

学部長賞 〈学術・文化部門〉

今野 和仁・高橋 雄也・永嶋 竜一

「地球にやさしい住生活コンペティション2010」最優秀賞受賞

横河研究室、佐藤光彦研究室、山中研究室

坂本 英之 2010年日本建築学会優秀卒業論文賞受賞

中田研究室

*1 学部4年間および短期大学部2年間の学業成績が優秀であった学生に対し、日本大学より授与。

*2 大学院博士前期課程の環境系および構造系分野の優れた研究論文に対し、齋藤賞基金に基づき、校門建築会より授与。本学の中興の祖と呼ぶべき齋藤謙次先生の業績を記念して設けられた。齋藤賞基金は、齋藤謙次先生の寄金を元に設立、佐藤稔雄、榎並昭各先生の寄金を追加。

*3 大学院博士前期課程の設計・計画系分野の優れた研究論文および設計作品に対し、駿建賞基金に基づき、建築学科教室より授与。戦後復興期において本学の設計教育の礎を築かれた建築家であり、かつ日本の建築文化に関する優れた論考を残された吉田鉄郎先生の業績を記念して命名された。駿建賞基金は、小林文次、宮川英二、近江栄、小谷喬之助、木村翔、若色峰郎各先生の寄金による。

*4 大学院博士前期課程の環境系および設計・計画系の優れた研究論文および設計作品に対し、駿建賞基金に基づき、建築学科教室より授与。駿建賞基金については*3参照。

*5 大学院博士前期課程の構造系分野の優れた研究論文に対し、駿構賞基金に基づき、建築学科教室より授与。駿構賞基金は、本岡順二郎、榎並昭各先生からの寄金を元に設立。構造系教授の寄金を追加。

*6 学部の優れた卒業研究論文および卒業設計作品に対し、校門建築会より授与。

*7 大学院博士前期課程の優れた研究論文および学部の優れた卒業設計作品に対し、理工

学部校友会からの寄金に基づき、建築学科教室より授与。

*8 学部の優れた卒業論文および卒業設計作品に対し、駿建賞基金に基づき、建築学科教室より授与。

*9 設計競技で優秀な成績を残した大学院博士前期課程の学生に対し、駿建賞基金に基づき、建築学科教室より授与。近江栄先生の発案により設立。駿建賞基金については、*3参照。

*10 学業以外で社会的に活躍した学生に対し、理工学部校友会より授与。

*11 大学院不動産科学専攻専任教員の基金に、平成8年度で定年（平成10年3月1日死去）となられた佐藤進先生（元・専任教授）から寄せられた基金。平成11年度で定年となった浅香勝輔先生（元・専任教授）から寄せられた基金を加え、不動産科学専攻の優秀修士論文に贈られる。

*12 日本環境管理学会名誉会長木村宏先生（元・専任教授）から不動産科学専攻にその運営を委託された基金により、大学院不動産科学専攻の優秀修士論文に贈られる（平成7年度新設、旧・日本環境管理学会会長賞）。

*13 不動産科学専攻を創設し、理工学部長、日本大学総長・理事長を務められ、平成20年度で定年となった小嶋勝衛先生（元・専任教授）から寄せられた基金により、大学院不動産科学専攻の優秀修士論文に贈られる（平成21年度設置）。

平成23年度 博士論文 修士論文・設計 タイトル一覧

大学院博士後期課程

主査：岡田 章教授，副査：半貫敏夫名誉教授，中田善久教授，野村卓史教授（土木工学科）——— 建築学専攻
永井 佑季 ホルン型張力膜構造の風応答性状に着目した設計用風荷重に関する研究

大学院博士前期課程

井上勝夫教授 ————— 建築学専攻

井田 啓介 鉛直振動に対する床の振動性能評価に関する研究
金 舟 中国北京市における集合住宅の音環境性能に関する研究
阪本 一生 大断面集成材を用いた木造建築物の重量床衝撃音対策方法の検討
宮松 優行 住宅建築を中心とした騒音・振動に関連する訴訟の原因分析と解決策の提案

井上勝夫教授・橋本 修准教授 ————— 建築学専攻

岡田 芳明 隣接する対話空間におけるスピーチプライバシー保護のための相互サウンドマスキング法

井上勝夫教授・羽入敏樹(短大)准教授 ————— 建築学専攻

桐山 直己 減衰を除去したインパルス応答による室内音場の拡散性評価

安達俊夫教授 ————— 建築学専攻

朝枝 亮太 エネルギーの釣合に基づく液状化地盤の損傷評価に関する研究
東京湾岸における液状化被害の調査及び沈下量の評価

岡田 章教授 ————— 建築学専攻

赤星 博仁 ケーブルクランプ金物部の滑動を考慮したテンセグリック・タワーの地震時応答性状に関する基礎的研究
鍋木 雄太 アーチ状ビーム式空気膜構造のインフレート及びデフレート時の挙動に関する基礎的研究
工藤 智之 ハイブリッド平板構造の応力制御に関する基礎的研究 膜の変形を考慮した制御目標の決定手法の適用性について
久保山 武 応力制御部材の集合で形成された張力曲面形状構造の耐力と変形性能について
小宮 圭太 スtring補剛アーチの提案及び施工時の挙動に関する基礎的研究
曲げ材を有するString・トラスアーチについての検討
寺田 直人 木質ブロック積層壁の水平力に対する構造性能の基礎的研究
野本 圭祐 ハイブリッド・ガラス・ビームの構造部材への適用性に関する研究
ガラスパネルを埋め込んだテンショントラスの提案と評価
松田 歩弓 連結したホルン型張力膜構造の風応答性状に関する研究

白井伸明教授 ————— 建築学専攻

赤羽 正寛 エネルギーの釣合に基づく鋼構造筋違付骨組の地震応答予測
伊東 大地 FEM解析に基づく各種破壊モードを考慮したブレース補強RC骨組の復元力特性のモデル化
小野 泰弘 せん断荷重を受ける有孔薄肉H形断面梁の耐力評価とスリーブ管補強法の適用性
河井慎太郎 改良ファイバーモデルによる靱性部材と脆性部材が混在したRC造骨組の耐震性能評価
西尾 淳 実被害状況に基づく損傷スペクトルを用いた既存RC造建築物の耐震性能評価法
橋本 拓 水平2方向外乱を考慮した偏心RC構造物のねじれ挙動の評価

中田善久教授 ————— 建築学専攻

坂本 英之 せき板の転用によるコンクリート表面の品質変化とこれを考慮した目的指向型型枠工事計画の提案

古橋 剛教授 ————— 建築学専攻

郭 鈞桓 次世代構造物設計法に関する研究 特徴的な地震動に対する超高層構造物の制震設計

古橋 剛教授・秦 一平助教 _____ 建築学専攻

廣谷 直也 地盤特性を考慮した D.M. を用いた建造物の制震性能に関する基礎的研究

今村雅樹教授 _____ 建築学専攻

〈修士設計〉

赤津 成紀 京都公会館再生計画 市民利用を中心とした文化複合施設と広場の設計

加藤 昂士 都営青山北町アパート建替計画 都営団地の更新に伴う高齢者を中心とした住まいと生活支援施設の提案

根本 亮佑 横浜市根岸台米軍基地跡地利用計画

根岸競馬場一等地スタンド改修及び療養機能を内包した市民利用としての健康スポーツセンターの設計

茂木 香織 北区十条地域コミュニティセンター計画

地域密着型公共サービス拠点と密集市街地整備促進に向けた集合住宅の設計

横河 健教授 _____ 建築学専攻

黒田 紗矢 都市的視点からみた明治神宮「外苑」の計画的特徴に関する研究

〈修士設計〉

今野 和仁 丸の内 3.5 次地区更新計画 新東京ビル街区建て替え計画を活用した自立型業務都市の提案

神保 寿弥 小田原市お堀端通り商店街再編計画 出桁造りを用いたお堀端通り商店街沿道の修景及び交流学習施設の計画

瀬戸 基聡 都心部における高度利用化を応用した建築的広場の創出

神田錦町三丁目再開発をモデルとした広大オープンスペース及びタワーの一体的設計

中村 隆志 瀬戸内戦争歴史博物館構想 戦争遺跡群の活用による分散型平和拠点施設の設計

佐藤光彦教授 _____ 建築学専攻

〈修士設計〉

森本 栄貴 地方都市中心市街地における寺院境内の再構築

浄土真宗大谷派金沢別院境内をモデルとした学習・療養空間の設計

池上 晃司 銀座六丁目再開発計画 銀座における大型商業施設の在り方の提案

鈴木康二郎 地域教育施設の設計 船橋小学校建替え計画をケーススタディーとした社会教育施設と小学校の複合化

高橋 雄也 葛飾区立中青戸小学校の設計 小学校における総合学習空間の提案

田中麻未也 国立西洋美術館更新計画 現代における装飾を用いた建築の更新手法

土川菜々子 都市計画道路整備事業に伴う下北沢駅前構想計画 既存の都市空間を継承した複合建築の設計

山中 友希 産官学連携による八王子地域活性化計画 コミュニティの育成を目指した地域交流拠点施設の設計

佐藤光彦教授・山中新太郎助教 _____ 建築学専攻

〈修士設計〉

永嶋 竜一 教育校群「新千歳小学校」 2つの前期校と1つの後期校から構成される新しい小学校の計画

三平 奏子 船橋市本町4丁目をケーススタディとした平常時・災害時・復興時の地域デザイン

地域密着型複合施設の提案を中心として

本杉省三教授 _____ 建築学専攻

藤田 怜 待ち合い空間活用型劇場の研究

鈴木 大志 単身者向け事業体介在型シェア居住の実態に関する研究 共有空間での居住者間交流を中心として

益田 絢美 都市におけるパブリックアートの果たす役割に関する研究 東京都立川市を事例として

森田 有貴 景観形成のための建築デザイン協議・審議に関する研究

景観条例を持つ地方自治体における協議・審議内容及びその実効性に着目して

山本 崇嗣 住宅団地における空き住戸活用手法の研究 学生入居事業の事例を通して

〈修士設計〉

鎌谷 良 群棲型都市住居の計画 台東区清川における都営住宅建替え

八藤後 猛准教授 _____ 建築学専攻

土屋 貴子 公共施設におけるトイレ利用の実態と施設計画

長谷川友樹 街路づくりにおける見通しが及ぼす影響に関する研究 道路周辺環境が及ぼす心理的影響の評価

渡辺富雄准教授 建築学専攻

佐藤 高 図書館の来館者の利用特性と行為に関する研究 武蔵野プレイスをケーススタディとして

野村雄一郎 サッカースタジアムに関する基礎的研究 国内のクラス S の 12 のサッカースタジアムを事例として

本杉省三教授・宇杉和夫准教授 建築学専攻

丸史 明 西安市 1950 年代集合住宅の居住環境の継承について 中国居住地の持続的形式と発展に関する研究

本杉省三教授・佐藤慎也准教授 建築学専攻

西島 慧子 地域における舞台芸術環境の構築手法に関する研究 演劇制作・支援団体の活動を通じて

大川三雄教授 建築学専攻

清水 明 PAU 理論を中心とする建築家大高正人の都市・建築論に関する一考察

根上彰生教授・川島和彦専任講師 建築学専攻

川鍋 充範 路面電車利用者の中心商店街における回遊行動に関する研究

広島市における路面電車利用者の行動特性と中心商店街の空間構成に着目して

瀧津 徹平 公営住宅の集会所および空き住戸の活用が地域に及ぼす効果に関する研究 大阪府および大阪市の事例に着目して

岸井隆幸教授 不動産科学専攻

中林 俊輔 東京 23 区における屋上緑化のあり方に関する研究

根上彰生教授 不動産科学専攻

賀上 寛之 旧耐震マンションの耐震診断および改修の促進に関する研究

中国におけるリバース・モーゲージ制度導入に関する研究 高齢化社会の到来に備えて

東原 一樹 都市における冒険遊び場の普及方策に関する研究 東京都世田谷区・国分寺市・武蔵野市に着目して

三橋博巳教授 不動産科学専攻

兒玉秀一郎 被災者生活再建支援制度に関する研究

横内憲久教授・岡田智秀准教授 不動産科学専攻

福田 朗大 海の文化性を活用した大田区臨海部のまちづくりに関する研究

遠藤 克則 景観教育における支援体制の構築に関する研究

加藤 悠大 都市における水域の不動産的価値に関する研究 新型案件における水域の土地利用について

川島 正嵩 農村景観の持続に向けた風景観の継承に関する研究 岐阜県岩村町富田地区を対象として

谷口 博城 減築を用いた商店街活性化のための整備手法に関する研究

中島 誠仁 都心型漁業を核としたまちづくりに関する研究 首都圏 3000 万人漁師化計画の提案

横内憲久教授・岡田智秀准教授・押田佳子助教 不動産科学専攻

板里 卓哉 緑地景観保全・創出方策としての景観グリーンチェーン構築に関する研究

瀬畑 尚紘 歴史的観光都市「鎌倉」における「徒歩観光」構築に関する研究 「通り」の空間特性に着目して

宇於崎勝也准教授 不動産科学専攻

柏崎 修 建築協定の持続的な運用方法に関する研究 越谷市の建築協定地区の運用実態に着目して

水谷 亮 地域づくりに寄与する支援ツールの開発に関する研究 東京都中央区日本橋地域を対象として

森田 暁 社会基盤の近代化が繁華地区に与えた影響に関する研究
両大戦間の東京市神田区須田町・小川町の変容に着目して

平成23年度 卒業研究・設計 タイトル一覧

学部

池田耕一教授

- 石川 正人 洪水災害被災後の居住環境問題に関する調査研究
- 小野 和弘 特定建築物における室内環境と省エネルギーに関する研究
複数事務所ビルにおける温湿度および二酸化炭素濃度の実態把握
- 河野 友宣・渡邊 裕太
オフィス、会議室、ホテルからなる超高層複合施設のエネルギー消費量に関する研究
- 中島 章 高齢者福祉施設における空気環境の実測調査
- 萩原 健 室内空間における軽度の暑熱条件下でのクールビズ着用効果の検討
暑熱ストレス・ストレインの労働生理学的評価と予防対策の研究 その1
- 小林 隆秀 暑熱負担軽減方策に関する実験的研究の検討
暑熱ストレス・ストレインの労働生理学的評価と予防対策の研究 その2
- 濱 千夏 緑化壁の日射遮へい性能に関する研究
- 小川 貴大 建築物利用者の室内環境と健康に関するアンケート調査
- 黒川 愛季 応急仮設住宅におけるカビ汚染実態の調査
- 後藤 郁 気化式加湿による菌、臭気対策に関する研究 気化式加湿の殺菌方法に関する研究
- 金山 慶彦 放射性物質による環境汚染とその対策技術に関する研究



井上勝夫教授・富田隆太助教

- 伊藤 豪希・土田 龍弥
建築環境工学分野における紛争の判例分析と司法判断に関する考察
- 太田 竜嗣・相原裕太郎
保育園のクワイエットルームに関する実態調査
- 小川 雄太・田中 元規
乾式二重床における重量床衝撃音対策に関する研究
- 小島 成博・渡邊 直樹
中国における集合住宅の音環境性能意識調査及び性能実態調査
- 近藤 史生・富田奈央樹
都市の街並み景観に関する実験的研究
- 田畑 彰悟・真鍋 遼平
居住空間における人の行動特性と主観評価
- 玉置 祐人・淵崎 礼奈
衝撃振動を対象とした床版の測定および評価方法に関する検討
- 羽根田知美・福山 拓俊・依田 拓也
大断面集成材を用いた木造建築物の床衝撃音発生系の検討
- 福島 弘貴・本田 淳志・山口 大希
河川における流体音に関する実験的検討



橋本 修准教授

- 岩崎 和真・田中 真央・千葉 峻樹
パーソナルスペースと空間内の明るさ分布の関係性
明るさ分布のコントラストとシルエット現象の影響
- 茨木 大輔・藤宮 達朗
接した対話組間における相互サウンドマスキングの検討
方向性を持たせたサウンドマスキングによる対話相手とのプライバシー性の確保
- 櫻井 和也・吉川 萌
先行音効果を用いた音声誘導支援における複数スピーカの拡声条件に関する基礎的研究



菅原 隆晃・高師 啓佑・徳川 愛海

VDT 視作業時の光視環境の要因が心理的評価に与える影響

高橋 和幸・松本 浩平

帰業性の要因を伴う経路選択時における向光性の効果に関する研究

蜂巣浩生専任講師

栗原 広成・齋藤 量平・佐久間太基・堀合 駿希・大屋 聡寿・白倉 太郎

「実験動物施設の性能評価法」確立に向けた構成要素抽出の試み

田中 宏樹・逸見 秀幸

他動的運動訓練が高位頸髄損傷者の身体状況に及ぼす影響 体調管理日誌に記録された各項目との関連について

田中 淳也・井本 千樹

継続的運動トレーニングが脊髄損傷者の温熱生理反応に及ぼす影響について
3年間の測定結果に見る温熱生理反応の変化



安達俊夫教授・山田雅一准教授

有田 真弥・梶山 繁樹

安定処理土の弾性波速度システムの開発

石倉 実果

粘性土改良土の一軸圧縮強度の評価方法

工藤 諒太・矢部 智久

2011年東北地方太平洋沖地震による液状化被害調査 現行の液状化判定法の適用性

篠崎 良太

FEM解析による山留め挙動の評価に関する研究 ひずみ依存性を考慮した変形係数の設定方法

並木いつか

小型振動台実験における相似則の適用性の検討

沼尻 倫明

東日本大震災における東北地方の生活密着型施設の事業継続性に関する調査研究

藤森 圭祐

エネルギーの釣合に基づく液状化の沈下に関する研究
2011年東北地方太平洋沖地震の液状化調査及び予測法の適用性の検討

舟木友里花

地盤改良を適用したパイルド・ラフト基礎に関する研究 FEM解析による沈下量の低減に関する検討

森垣 大佳

2011年東北地方太平洋沖地震による液状化被害調査
首都圏における液状化被害状況と地震動の継続時間が液状化特性に与える影響

安河内翔平

エネルギーの釣合に基づく液状化の沈下に関する研究 規準化累積塑性ひずみエネルギーと体積ひずみの関係

吉田 理恵

地盤・基礎構造物の被害が公共施設の復旧に与える影響に関する研究 2004年新潟県中越地震による長岡市の事例

渡邊 俊治

粘性土改良土の強度・変形特性に関する研究 せん断強度と残留強度の評価

山下 哲平

2011年東北地方太平洋沖地震による液状化被害に関する研究 噴砂の粒度特性と液状化被害状況



岡田 章教授・宮里直也助教

足立 識文

いす型配座構造の屋根架構への適用性に関する基礎的研究

有路 亮平

立方体積層型ケーブルタワーの力学性状に関する基礎的研究

岩見 京助

放射型ストリング式骨組架構 (SKELSION) の力学的特性に関する実験的研究

上松 幸平

六角形 Tensegric Truss の平板への適用に関する基礎的研究

大澤 壮

トラス材で形成された一葉双曲面形状柱の水平荷重時の耐力と変形性能について

小俣 智司

多ピン PS アーチの仮設建築への適用に関する研究 シリンダー型多ピン PS アーチの提案

総谷 友昭

連結した HP 曲面型張力膜構造の風荷重時の挙動に関する基礎的研究

北島幸之助

木ダボを用いて締結した木質ブロック積層壁の力学的性状の把握

黒瀬 優

膜材を組み込んだ六角形 Tensegric Truss の仮設建築への適用に関する基礎的研究

小島 上徳

Tensegric Truss (Type I) を用いた負圧空気膜構造の構造特性に関する研究

佐藤 公紀

Reciprocal Frame を用いた切頂 20 面体ドームに関する研究 木質系材料の場合の接合方法の検討

下村 太郎

負圧二重空気膜構造の構造特性に関する基礎的研究

勝治 寛

木造軸組住宅における接合金物の安全性検証 接合具が及ぼす影響について

城一 祐樹

SEnz 型骨組膜構造の風圧力特性に関する基礎的研究



高岡 孝次	ガラスチューブを弦材として用いたトラス構造の提案と基本構造特性の把握
田中美菜子	HP 形状 2 方向ラチスシェルのテンション補剛に関する実験的研究
中村 和正	リングを用いた切頂 20 面体に関する基礎的研究 崩壊性状の実験的把握
畑野 遼	ガラスプリズムを用いたガラスビームの屋根架構への提案と基本的構造特性の検証
平野 哲也	ガラスを用いた集積構造の屋根架構への適用性に関する研究
柳瀬 仁志	ヘリカル・シザーズ構造の提案と実用性の検討 プリベンディング材を螺旋配置したシザーズ式アーチ構造について
川島 唯	プリベンディング部材を用いたハイブリッド張力膜構造の提案
小林 聡	張弦シザーズ構造によるドーム形状への適用に関する基礎的研究
篠崎 茉美	膜を使用したテンセグリティの仮設建築物の提案



白井伸明教授・田嶋和樹助教・石鍋雄一郎助手

井草 靖晃	損傷スペクトルを用いた RC 造建物の損傷評価手法 既存不適格建物に対する損傷手法の構築
石橋あゆみ	全体曲げ破壊する補強後 RC 骨組の梁要素解析モデルの構築および補強位置の検討
岩瀬 忠敏	耐力偏心を有する単層 RC 構造物の弾塑性ねじれ挙動の評価 (その 1) 解析モデルの構築及び静的解析結果
横川 匠	耐力偏心を有する単層 RC 構造物の弾塑性ねじれ挙動の評価 (その 2) 動的荷重下のねじれ挙動と BST 面による評価
宇賀 神駿	ブレース座屈を伴う RC 骨組の FEM 解析モデルの構築
長田 圭司	溶接軽量 H 型鋼梁のスリーブ管による貫通孔補強効果の解析的研究
岸野 高明	南極大陸ドームふじ観測基地の吹きだまり対策に関する実験的研究
小林 謙太	単層 S 造体育館を対象とした Is 値と地震応答特性 (その 1) 研究背景及び解析概要
田中 仁樹	単層 S 造体育館を対象とした Is 値と地震応答特性 (その 2) 解析結果
田邊 哲也	地震観測点近傍における東北地方太平洋沖地震の建物被害調査
山口 温子	靱性柱と脆性柱が混在する RC 造骨組の耐震性能に関する検討 (その 1) プッシュオーバー解析に基づく検討
荒井未菜美	靱性柱と脆性柱が混在する RC 造骨組の耐震性能に関する検討 (その 2) 地震応答解析に基づく検討
山根 康孝	極めて小さいシアスパンにおいてパンチングシア破壊する補強後 RC 骨組の FEM 解析
渡邊 大祐	線形破壊力学の応用による鋼材の靱性評価に関する研究
渡部 俊宗	3次元 FEM およびファイバー解析を用いた既存 RC 造建物の耐震性能の検証 (その 1) プッシュオーバー解析による水平耐力の検討
片岡 美穂	3次元 FEM およびファイバー解析を用いた既存 RC 造建物の耐震性能の検証 (その 2) 非構造壁の有無が地震応答に及ぼす影響
古川 正憲	既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震性能に関する研究 低強度コンクリートに関する研究



中田善久教授

芦川 雄郁	大規模地震による鋼製下地材を用いた在来工法天井の被害状況に関するアンケート調査
大辻 浩輔	コンクリート強度管理用供試体の違いが応力-ひずみ曲線に及ぼす影響
宮田 敦典	細骨材の表面水率の変動が高強度コンクリートの品質に及ぼす影響
秋山 良	吸水性状と調合分析に基づくコンクリート品質評価に関する研究
手島 基	植物繊維の左官モルタル補強材への利用に関する研究

古橋 剛教授・秦 一平助教

〈古橋ゼミ〉	
土田 亮章	偏心を有した構造物に対する D.M. を用いた応答制御手法の確立 その 1 1 層モデルにおけるねじれ応答の制御
弓削 貴史	偏心を有した構造物に対する D.M. を用いた応答制御手法の確立 その 2 多層モデルにおけるねじれ応答の制御
玉木 龍	制震構造物のエネルギー特性 その 1 時刻歴における減衰エネルギーの分離



藤田雄一郎	制震構造物のエネルギー特性 その2 エネルギーのモード分離法の提案
笠原 俊	高層建物の設計用長周期地震動について 2011.3.11 東北地方太平洋沖地震の観測記録による検討
登坂遼太郎	擬似モード制御システムにおける D.M. 量に対する性能把握 部分モード制御システムの提案
〈秦ゼミ〉	
阿部 裕一	大地震時における駿河台キャンパスの避難に関する研究 その1 東北地方太平洋沖地震による駿河台キャンパスの避難対応の検証と考察
加瀬真一郎	大地震時における駿河台キャンパスの避難に関する研究 その2 アンケート調査による安否確認システムの提案
石田 安澄	超高層免震建物の簡易設計法に関する基礎的研究 免震部材の引抜面圧を基準とした逆設計法
武田 哲平	東北地方太平洋沖地震によるつり天井の耐震性の検証と改修方法に関する研究 その1 1号館つり天井の被害状況及び実大振動実験
稲毛康二郎	東北地方太平洋沖地震によるつり天井の耐震性の検証と改修方法に関する研究 その2 粘弾性ゴムを用いたダンパーによる制震改修方法の検討
木村 武浩	制震装置を集中配置した制震構造物の応答性能に関する基礎的研究 その1 柔層化層に用いる弾塑性ダンパーと D.M. モード制御システムの組合せ検討
安松 哲生	制震装置を集中配置した制震構造物の応答性能に関する基礎的研究 その2 提案システムの解析検討と性能確認実験結果
齋藤 善張	非線形粘性ダンパーの初期減衰係数が応答に及ぼす影響について

今村雅樹教授

〈卒業設計〉

伊藤 舞	地の塔 北海道立図書館の設
岩田 大輝	都市景観の隙間
大堀 裕太	旧住空間再生 公団団地再生計画
栗田 健佑	隅田川の上で、浅草地域における諸問題の設計的解決方法
斎藤 大亮	SEVEN's Canvas 都内における公共建築のあり方
中西 祐介	アクティブな壁、クローズな壁 壁から生まれる新たな学校コミュニティー
野田 香織	HIGATA concealer 谷津干潟における新しい観察スペースの提案
芳我まり子	みんなの ONSEN 横浜市泉区いちょう団地における多分化共生地域センター計画
町田 昂弘	明滅都市 再開発の縁における街の境界のつくりかた
山本 匡希	混在都市連続体 都市と個人の間接項を目指して
和田 修平	渋谷駅周り開発における職住近接空間の集合体の提案



横河 健教授

〈卒業設計〉

蔵藤 勲	水辺のタペストリー 川を編み込んだ堤防建築
平野 淳也	市場開放 市場を拠点とした生活のコミュニティ化
孫 君如	青煉瓦の家 中国古都において住宅の保存と修復
武久 忠正	商品化住宅の解体と再構成 ライフサイクル・ライフスタイルに対応する組み替え可能な集合住宅
谷田 一平	PURE DOM-INO 銀座純折衷主義的商業建築
千綿 悠介	借り暮らしノ大家族 城下町都市佐賀のクリークを活用した職住の暮らしの再生
中山 将	PLATFORM
原 俊介	吾妻ターミナルブリッジ 吾妻橋における橋の観光化の提案
平野 悠哉	Othello 表裏の建築
梅林 稔弘	Cloud Rack 760



山崎誠子助教

市川 恵里	動物園におけるランドスケープイマージョンの現状と一考察
-------	-----------------------------



よこはま動物園ズーラシアにおけるケーススタディ

- 伊藤 由華 東京都・神奈川県・千葉県における推奨木に関する研究 都市の緑化への主要3都市の動き
大川 朱音 史跡名勝の公園化に関する研究
熊倉 拓 神田地区における街路景観の分析と評価に関する研究
清水稚奏子 港区の区立公園についての研究 都市公園法改正による公園計画の変化と現状
直嶋恵里沙 さいたま市浦和区の緑被率に関する研究
夏目 涼 医療建築におけるランドスケープの研究
宮沢 綾 港区における壁面緑化の現状の研究
米山 祐子 千葉県館山市の景観整備に関する研究 現状と今後の課題
飯岡 千明 微気候の研究 水田に囲まれた農家の環境
古瀬 司 災害復興のためのランドスケープの研究 ソーシャルランドスケープの提案

佐藤光彦教授

〈卒業設計〉

- 石森 祥太 都市型PA 後楽パーキングエリア 交わらない動線の新たな関係性
小笠原 隼 新工業都市
小野 可愛 CHEESE
佐藤 太輝 裏返る住宅地
丹下 幸太 transfiguration
塚越 望 mediate 小金井市庁舎移転計画に伴う複合庁舎の提案
豊田 玲奈 低層住宅□高層ビル 再開発の裏の計画
番屋 陽平 風景のパレード 賑わいが流れる浜町堀
矢野 卓馬 とあるお堀の物語
山本 尚史 21st Century Office : Domino System to Void System
VOIDによる均質空間の変容性を用いたオフィス空間の提案
藤本 陽介 佃島は浮かび上がる 水辺へ繋ぐストライプ



山中新太郎助教

- 小出 恵嗣 まちのオープンスペースにおける「たまり」に関する研究
日本大学理工学部駿河台校舎前及び千代田区道444号線を事例にして
齋藤 武 世紀末ウィーンにおける「装飾」に関する研究 アドルフ・ロースの建築を対象として
- 〈卒業設計〉
- 朝倉 亮 街門 僕達は何かを目指す 駅、或いは
亀井 一帆 軍艦島ミュージアム
杉本 将平 山手線図書館 鉄道の線路軌道が生む空間を利用した建築の提案
本宮 久隆 松山城三之丸史跡球技場計画
矢嶋 宏紀 超高層美術館 新たな東京のアート拠点となる、垂直方向に展開される美術館の提案
山本 成子 Roppongi Terminal
和田 智子 籠一こもりー 自己再構築のための水空間



本杉省三教授

- 青木 駿太 有料多目的レンタルスペースの利用実態に関する研究
天野 容平 美術館を拠点とした教育普及活動に関する調査研究 神奈川県内の美術館を対象として
安濃 一史 住まいにおけるこども室について ハウスメーカーが考える住まいの過去と現在
小野 梓 郊外地域における中心エレメントに関する研究
河合 誠人 子育てを終えた親から考えるこども室について



金原 巧 公共図書館の児童部門における利用実態について 北区立中央図書館を事例として
 田村 想 公共図書館における学習室利用の実態とあり方について 墨田区立あずま図書館を事例として
 横田 祐治 日本大学理工学部駿河台図書館の改善点について学生の視点で考える
 平山 詠梨 分譲団地のリフォーム実態調査からみた建替え・修繕・改修に関する調査研究
 成田ニュータウン分譲住宅団地アンケート調査から

〈卒業設計〉

柳 皓成 connecting scene 防火建築帯建替におけるヴォリューム分散配置型複合施設の提案
 山崎 周拓 オモヤとハナレとコリドール

佐藤慎也准教授

籾 景美 公立美術館の設立趣旨に関する研究
 大橋 麻紀 もの派の研究 環境の意識に着目して
 島田 遥 現代美術館の展示空間構成に関する研究
 鈴木 薫 映画編集に関する研究 空間と時間による視覚的表現に着目して
 塔尾 洋一 情報化社会における哲学と倫理 現代の建築論の模索
 長尾 芽生 アートボランティアに関する研究 アートプロジェクトにおける活動を中心として
 福田 朱根 現代におけるコミュニティデザインに関する研究 studio-Lの活動を通して
 堀木 彩乃 商業施設におけるイベントスペースに関する研究
 堀切梨奈子 まちなかにおける芸術活動に関する研究 場の利用と参加態度を通して



八藤後 猛准教授

伊東 清音 子どもの危険回避能力と生活体験に関する研究 建築安全計画のための基礎的研究
 伊藤 理紗 温泉施設の快適性について
 大沼奈津美 子連れ外食における飲食店の利用しやすさに関する研究
 川上 玲奈・蓮澤美沙希 節電時における駅の計画 視覚障害者のためのバリアフリー
 坂田 直輝 ドアの指はさみ事故防止に関する研究
 渋谷 鎌磨 男女が働きやすい保育所職員空間に関する研究 男性保育士の増加に適応する保育所
 清水 信貴 住宅における子ども用階段手すりの基準に関する研究
 堤 真吾 新宿駅における乗換と周辺地域への移動を円滑化するためのルートマップ作成に関する研究
 手塚 啓介 色彩計画に配慮した戸建て住宅の提案 視覚障害者の視点から
 具志堅いづみ 公共の歩行者空間の安全に関する研究 視覚障害者、知的障害者の外出支援のあり方
 能勢 摩耶 精神障害者グループホーム居住者の住宅性能に対する意識調査 川崎市内におけるグループホームを対象として



渡辺富雄准教授

荒木 千陽 茨城県の高齢者専用賃貸住宅の実態調査と県営ひばりアパートの改修計画の提案
 大島 由貴 外遊びにおける異年齢交流の発生場所と遊び行為の関係性に関する研究
 横浜市の認定こども園を事例として
 奥村 健 廃校に伴う中学校校舎の用途転用に関する研究 東京都区部の公立中学校9事例を通して
 河合 雅由 コレクティブハウジングの基礎的研究 NPO コレクティブハウジング社の事例を通して
 坂本亜沙未 図書館スタッフから見た事務系諸室の空間構成の評価に関する研究
 区立千代田図書館、区立葛飾中央図書館、武蔵野プレイスをを通して
 佐々木彩香 こどもの遊び行為と空間に関する研究 異なる遊び空間での観察調査からみた考察
 駿藤 伊織 盲導犬訓練施設の機能と計画に関する研究 日本国内の12施設の事例調査研究を通して
 中山 満 図書館利用者の属性と行為からみた場所選択に関する研究
 武蔵野プレイス、葛飾中央図書館、千代田図書館を事例として
 波多野真一 小規模多機能居宅介護施設の利用者特性と利用圏に関する研究 東京都練馬区の事業所を事例として



三壁 祐哉 施設一体型小中一貫校における学年配置と教室ユニットの平面構成
学校建築の雑誌「School Amenity」過去5年分に掲載された事例を通して

〈卒業設計〉

中田 光 COMM:RIPPLES 郊外での公共空間を備えた図書館の設計
原 祐典 台東区役所の設計 庁舎建築の在り方について考える

宇杉和夫准教授

井町 順文 東北地方における津波に対する神社の避難場所の機能の分析 宮古市の海岸付近の神社を事例として
清水 遼 東日本大震災から見る持続的地域コミュニティについての研究
宮古市における仮居住形式の変遷の把握
田島 雄一 震災復興仮居住におけるコミュニティの役割 双葉町借上げ住宅を事例として
平岡 昭 岩手県宮古市の地域固有の資産を活かした復興まちづくりの提案
三陸海岸における観光拠点としての鯉ヶ崎の位置付け
平野 祐樹 見沼たんぼの市民農園の実態と地域農産業活性化についての研究 実態調査を中心として
安永 直哉 見沼たんぼの市民農園の実態と地域農産業活性化についての研究 意向調査から見る見沼たんぼ
遠藤 洋平 ヤマ路地ムラ路地再生による復興計画支援 岩手県宮古市を例にした路地空間の再編



大川三雄教授・重枝 豊教授・小島陽子助手

〈大川研究室〉

安樂 駿作 建築家・葛西萬司の建築観と設計活動にみる特徴
里井 レミ 『暮らしの手帖』(1948-1969)にみる住宅関連記事の変遷と特徴に関する研究 建築界の動向との比較
篠原 通宏 佐野利器の復興建築論にみる「共同建築」の理念とその実践に関する研究
復興建築助成株式会社を活動を中心として
友田 雄俊 建築家 佐藤功一の住宅観とその変遷に関する研究 著作と論稿を通じた史的分析
間瀬 朋美 インフラ整備の変遷にみるバロック都市ローマの形成過程に関する考察
川崎 圭祐 建築家・C.F.A. ヴォイジエの住宅作品にみる伝統表現の推移 伝統性に依拠した設計思想を通して
武知 俊貴 ロシアアヴァンギャルドにおけるヤコフ・チェルニホフの著書の特徴と意義に関する考察

〈重枝研究室〉

加藤 千晶 長谷寺本堂建地割図を用いた本堂計画意図の解明に関する研究
江戸時代初期再建社寺建築の計画手法に関する一考察
服部 知彰 密教建築にみる多宝塔の平面構成の特徴に関する一考察 上・下重平面や各部寸法の類別を中心として
丸山 麻美 導入期と完成期における禅宗様建築の細部寸法決定手法に関する一考察
方3間裳階付き仏殿の柱間寸法を中心とした寸法構成について
菱谷美菜子 大仏様意匠を用いた建築の平面・断面における寸法構成に関する一考察
大仏様の空間構成が後世の建築に与えた影響について
富田進太郎 諏訪大社上社本宮の伽藍変遷に関する一考察 江戸再興期を中心とした社殿の変遷について



三橋博巳教授

岡安 俊樹 大型商業施設の出店と商店街への影響 加須市商店街について
尾崎 俊介 木造住宅密集地域の避難に関する研究 東京都大田区を対象として
小野 拓実 自転車利用促進における道路整備に関する研究 神奈川県茅ヶ崎市駅前を事例として
加藤 大吾 重要伝統的建造物群保存地区における建築意匠の形成過程 埼玉県川越市川越一番街を対象として
今野 僚 地方自治体施設の公共FMの導入に関する研究 東京都の事例について
名越 優貴・横上 昌宏 東京都23区の賃貸マンションにおける価格の研究 山手線沿線について
森 春樹 伊豆市のウェルネス事業と活性化に関する研究 TO-JIプログラムについて
陸田 真菜 土壌汚染地の土地利用に関する研究 工場跡地を事例として



- 井上 裕也 公共施設のバリアフリー化の実態に関する研究 千葉県公立高等学校と駅を対象として
播磨 秀幸 英国の中古住宅流通に関する研究 日本と英国の比較
市原 恵太 首都直下型地震における防災対策に関する研究 東京都を対象にして

根上彰生教授

- 小野寺 匠・後藤 俊・田村 太一
優先的に沿道建築物耐震化を促進すべき避難経路の選定に関する研究
加藤 優基・桜井 澄・楠木 堅曹
駅前空間の機能分析と総合評価に関する研究



宇於崎勝也准教授

- 秋田 容子・舟木真奈花
鉄道高架下空間の利用と建物用途に関する研究 高架下における空間構成要素に着目して
安喰 大智・角舘 義一
坂道空間の要素分析とその評価に関する研究 坂道空間の見上げ景観と見下ろし景観の違い
今泉 裕貴・小山田佳史・桂林 太一
東京近郊の駅前商店街の実態に関する研究 市川駅、本八幡駅周辺を事例として
海野 友弘・小幡 卓史・飛田 裕也
一体型土地区画整理事業による市街地の形成に関する研究 つくばエクスプレス沿線を事例に
岡田 安弘・富樫 尚仁
自転車通行環境整備モデル地区の整備実態に関する研究 関東地方21地区を対象として



川島和彦専任講師

- 岡長 周平・幸田 崇
東京都における既存建物を活用した有料老人ホームの供給に関する研究
その1. 既存建物を活用した有料老人ホームの実態
その2. 有料老人ホーム設置運営指導指針の改定の提案
下山 亮・連石 雄大
金沢市における伝統的産業の担い手による歴史的建造物の活用に向けた取り組みの実態に関する研究
その1. 担い手育成および歴史的建造物の活用の取り組みとその実績
その2. 担い手による活用経緯および活用における課題の分析
鈴木 貴博・早瀬 悠真・水野 秀亮
地方都市における高齢者向け公営住宅を拠点とした地域活動の活性化に関する研究
その1. 先進事例5施設における取り組みの実態
その2. 熊本県宮健軍団地を対象とした拠点整備および団地内高齢者の参加実態
その3. 周辺地域にサブ拠点を展開することによる効果の分析
高橋 祥太
「産業観光」の連携体制における中核的推進組織の役割に関する研究
群馬県桐生市における産業遺産にかかわる組織間の関係に着目して
山中 沙智
広域連携による歴史的建造物の活用の展開に関する研究 神奈川県相模湾沿岸地域を対象として
岡部 佳代
台北市饒河街観光夜市の整備の変遷と利用実態に関する研究 屋台・騎樓・店舗の関係に着目して
米山 隆晃
地方都市におけるまちなか居住推進のための空き家情報提供制度に関する研究
まちなか居住を目指した関連する取り組みとの関係に着目して



横内憲久教授

- 浅賀 真治
減築を用いた商店街活性化のための整備手法に関する研究
商業施設「wazawaza」にみる減築の有用点
大久保慎之介・中藤 元希
水上交通を核とした広域的な地域活性化に関する研究
(その1) 新町地区における遊覧船に着目して
(その2) 地域間をつなぐ水上交通の有用性について



- 大村 倫平 都市における水域の不動産的価値に関する研究 水域の土地の利用における評価項目について
- 河口 怜史 コンパクトシティ政策促進の方策に関する研究 自治体から捉えたコンパクトシティ政策の課題
- 河野 琢磨 港湾機能再編における「みなとまちづくり」に関する研究 静岡県清水港日の出地区における地域資源の抽出
- 佐波 敏英 都心型漁業を核としたまちづくりの提案 社会実験からみる大田区「漁業」の位置づけ
- 前原 裕美 震災復興における「地域の記憶」の継承に関する研究 塩竈湾臨港地域における「地域の記憶」の把握
- 松坂 超 都市における寺社空間の保全に関する研究 切絵図・古地図・現代地図からみる寺社面積の変遷について
- 加藤 智也 景観教育における支援体制の構築に関する研究 「景観まちづくり学習」協働実施校における教育計画に着目して

吉野泰子(短大)教授

- 荒井 秀明 素材にふれて考える住まいの住環境教育に向けた取り組み
模型キットと緑のカーテンによる涼房効果
- 有林 裕輔 住宅・建築物省 CO₂ 先導事業マンションの環境設計 その2. 夜間冷気導入による CO₂ 削減効果の検証
- 篠塚 寛明 重要文化財のバッファゾーン設定に向けた実践的法整備に関する検討
その1. ビルの高さと樹木がビル風に及ぼす影響
- 清水 貴太 住宅・建築物省 CO₂ 先導事業マンションの環境設計 その1. パッシブ手法導入による H.I.P の低減効果
- 樋口 智文 重要文化財のバッファゾーン設定に向けた実践的法整備に関する検討
その2. 韓国文化財保護法の翻訳と具体的法制度への試み



黒木二三夫(短大)教授

- 堀川 史也 テンセグリティによる施設園芸農業架構の提案
- 櫻井 陽子 POV-RAY による膜構造建築のビジュアル化 雪氷構造物の実現に向けて



下村幸男(短大)教授・酒匂教明(短大)専任講師

- 真瀬 貴成 摩擦音を利用したスウェーデン式サウンディング試験に関する研究
その1 フィールド測定に適用可能な試験機の改良
- 新中 義彦 摩擦音を利用したスウェーデン式サウンディング試験に関する研究
その2 フィールド実験の結果
- 大羅 将・奈良 準也 RC 造学校建築の耐震補強前後の常時微動の変動に関する基礎的研究
- 片岡 翔太・倉島 貴昭 摩擦音に着目した土質判定を可能にするスウェーデン式サウンディング試験に関する研究
中間土を対象とした模型地盤による検討及びフィールド実験結果
- 吉沢 逸朗 震災瓦礫を用いた減衰地盤材料による嵩上げ造成地盤の動特性に関する基礎的研究



小石川正男(短大)教授・田所辰之助(短大)准教授・矢代眞己(短大)准教授

〈卒業設計〉

- 鎌田 暢 月島リボン つきしまのかこ・いま・みらいを紡ぐ7つの結び目



平成23年度 短期大学部 卒業生一覧

芦達 記英	桐生この夢	角川 将基	藤田 康平
阿部 紘樹	隈部 真司	椿 礼	宮田あゆみ
安西沙保里	小林 周平	富田 赳成	武川 将之
池田 知史	小林 幸弘	中込 慎也	森下 雄亮
伊佐康太郎	櫻井 晃平	中澤 拓海	矢代麻佑子
伊藤 彦太	澤頭 俊平	中島 伊織	山内 玲美
伊藤 壮祐	島野 嵩史	鳴田 健志	山田 航平
伊藤智香子	清水 悠生	難波 豪生	山本 健太
岩本 桃果	鈴木 健明	西 愛里子	若櫻 茄菜
江原 一晃	高安 結子	二峰万理江	若杉 健太
岡本 恭明	田久保 匡	仁平 広志	庄司 綾
鹿志村麻紀	田島 麻衣	蓮澤紳之介	清水 葉月
金井 美保	田中 陽平	羽鳥 愛美	長谷川良太
金子 顕	谷村安歌理	原島 和	藁科文美繪
金坂 裕之	土屋慧利子	平岡 恵利	

駿建目次	2011送る言葉	2	平成23年度 卒業研究・設計 タイトル一覧	11
2012年3月号 Vol.39 No.5 通巻167号	平成23年度 各賞受賞者一覧	6	平成23年度 短期大学部 卒業生一覧	20
表紙「駿河台校舎5号館」	平成23年度			
設計：宮川英二	博士論文 修士論文・設計 タイトル一覧	8		
撮影：佐藤慎也				

平成23年度 各賞受賞者一覧

優等賞*1 (学部・短期大学部)

渡部 俊宗
山根 康孝
尾崎 俊介
山崎 周拓

登坂遼太郎
清水 信真
能勢 摩耶
安松 哲生

石田 安澄
嶋田 健志 (短期大学部)
山田 航平 (短期大学部)

齋藤賞*2 (大学院)

〈修士論文〉 井田 啓介 鉛直振動に対する床の振動性能評価に関する研究 指導：井上勝夫教授
廣谷 直也 地盤特性を考慮した D.M. を用いた構造物の制震性能に関する基礎的研究 指導：古橋 剛教授、秦 一平助教

吉田鉄郎賞*3 (大学院)

〈修士論文〉 川鍋 充範 路面電車利用者の中心商店街における回遊行動に関する研究
広島市における路面電車利用者の行動特性と中心商店街の空間構成に着目して 指導：根上彰生教授、川島和彦専任講師
〈修士設計〉 永嶋 竜一 教育校群「新千歳小学校」 2つの前期校と1つの後期校から構成される新しい小学校の計画 指導：佐藤光彦教授、山中新太郎助教

駿建賞*4 (大学院)

〈修士論文〉 濱津 徹平 公営住宅の集会所および空き住戸の活用が地域に及ぼす効果に関する研究
大阪府および大阪市の事例に着目して 指導：根上彰生教授、川島和彦専任講師
〈修士設計〉 森本 栄貴 地方都市中心市街地における寺院境内の再構築
浄土真宗大谷派金沢別院境内をモデルとした学習・療養空間の設計 指導：佐藤光彦教授
今野 和仁 丸の内3.5次地区更新計画
新東京ビル街区建て替え計画を活用した自立型業務都市の提案 指導：横河 健教授
土川菜々子 都市計画道路整備事業に伴う下北沢駅前構想計画
既存の都市空間を継承した複合建築の設計 指導：佐藤光彦教授

駿構賞*5 (大学院)

〈修士論文〉 坂本 英之 せき板の転用によるコンクリート表面の品質変化とこれを考慮した目的指向型枠工事計画の提案 指導：中田善久教授
松田 歩弓 連結したホルン型張力膜構造の風応答性状に関する研究 指導：岡田 章教授
朝枝 亮太 エネルギーの釣合に基づく液状化地盤の損傷評価に関する研究
東京湾岸における液状化被害の調査及び沈下量の評価 指導：安達俊夫教授

桜建賞*6 (学部・短期大学部)

〈卒業研究〉 岩崎 和真・田中 真央・千葉 峻樹 パーソナルスペースと空間内の明るさ分布の関係性
明るさ分布のコントラストとシルエット現象の影響 指導：橋本 修准教授
石田 安澄 超高層免震建物の簡易設計法に関する基礎的研究
免震部材の引抜面圧を基準とした逆設計法 指導：秦 一平助教
大辻 浩輔 コンクリート強度管理用供試体の違いが応力-ひずみ曲線に及ぼす影響 指導：中田善久教授
安樂 駿作 建築家・葛西萬司の建築観と設計活動にみる特徴 指導：大川三雄教授
河野 琢磨 港湾機能再編における「みなとまちづくり」に関する研究
静岡県清水港日の出地区における地域資源の抽出 指導：横内憲久教授
〈卒業設計〉 丹下 幸太 transfiguration 指導：佐藤光彦教授
〈短期大学部 卒業制作〉 土屋慧利子 おもしえ時間 山居倉庫と歩む地域の絆画 指導：小石川正男(短大)教授
羽鳥 愛美・宮田あゆみ・矢代麻佑子 Interior of Water 指導：羽入敏樹(短大)准教授

奨励賞*7 (大学院・学部)

〈修士論文〉 阪本 一生 大断面集成材を用いた木造建築物の重量床衝撃音対策方法の検討 指導：井上勝夫教授
西尾 淳 実被害状況に基づく損傷スペクトルを用いた既存 RC 建造物の耐震性能評価法 指導：白井伸明教授
野村雄一郎 サッカースタジアムに関する基礎的研究
国内のクラス S の 12 のサッカースタジアムを事例として 指導：渡辺富雄准教授
〈卒業設計〉 野田 香織 HIGATA concealer 谷津干潟における新しい観察スペースの提案 指導：今村雅樹教授

駿優賞*8 (学部)

〈卒業研究〉市川 恵理 動物園におけるランドスケープイマージョンの現状と一考察
よこはま動物園ズーラシアにおけるケーススタディ

指導：山崎誠子助教

駿建コンペティション業績賞*9 (大学院)

中村 隆志

横河研究室

桜工賞*10 (大学院・学部・短期大学部)

〈大学院・学部〉土川菜々子・三平 奏子・茂木 香織・西島 慧子

「2010年地球にやさしい住生活コンペティション」協賛企業賞受賞

佐藤光彦研究室、山中研究室、今村研究室、佐藤慎也研究室

西尾 淳 第33回コンクリート工学講演会年次論文奨励賞受賞

白井研究室

坂本 英之・廣谷 直也・秋山 良・芦川 雄郁・大辻 浩輔・宮田 敦典・手島 基

東北地方太平洋沖地震に係る陸前高田市における災害調査およびボランティア活動

中田研究室、古橋・秦研究室

池上 晃司・鈴木康二郎・高橋 雄也・田中麻未也・土川菜々子・山中 友希・森本 栄貴

「八幡山アートプロジェクト」最優秀賞受賞

佐藤光彦研究室

黒瀬 優・田中美菜子・小井 聡

卒業アルバム委員としてアルバム製作において中心的な役割を果たした

岡田研究室

山本 匡希・斎藤 大亮・町田 昂弘

東日本震災復興支援イベント環境技術研究機構主催「大樹町メムサミット・学生のための住宅デザインコンペティション」入賞

今村研究室

山本 匡希・伊藤 舞

NPO 日中交流推進機構主催東日本震災復興会津サマーボランティア活動『元氣福島 Project』にて他大学（早大、東大、立教大、千葉大など）の学生たちと協力したプロジェクトで委員長として行動した

今村研究室

〈短期大学部〉清水 悠生 クラスの精神的リーダーとして活躍した

短期大学部

不動産科学専攻研究奨励賞*11 (大学院不動産科学専攻)

瀬畑 尚紘 歴史的観光都市「鎌倉」における「徒歩観光」構築に関する研究 「通り」の空間特性に着目して

指導：横内憲久教授、岡田智秀准教授、押田佳子助教

谷口 博城 減築を用いた商店街活性化のための整備手法に関する研究

指導：横内憲久教授、岡田智秀准教授

日本環境管理学会・木村賞*12 (大学院不動産科学専攻)

板里 卓哉 緑地景観保全・創出方策としての景観グリーンチェーン構築に関する研究

指導：横内憲久教授、岡田智秀准教授、押田佳子助教

小嶋賞*13 (大学院不動産科学専攻)

史 斌 中国におけるリバース・モーゲージ制度導入に関する研究 高齢化社会の到来に備えて 指導：根上彰生教授

学部長賞 〈学術・文化部門〉

今野 和仁・高橋 雄也・永嶋 竜一

「地球にやさしい住生活コンペティション2010」最優秀賞受賞

横河研究室、佐藤光彦研究室、山中研究室

坂本 英之 2010年日本建築学会優秀卒業論文賞受賞

中田研究室

*1 学部4年間および短期大学部2年間の学業成績が優秀であった学生に対し、日本大学より授与。

*2 大学院博士前期課程の環境系および構造系分野の優れた研究論文に対し、齋藤賞基金に基づき、校門建築会より授与。本学の中興の祖と呼ぶべき齋藤謙次先生の業績を記念して設けられた。齋藤賞基金は、齋藤謙次先生の寄金を元に設立、佐藤雄雄、榎並昭各先生の寄金を追加。

*3 大学院博士前期課程の設計・計画系分野の優れた研究論文および設計作品に対し、駿建賞基金に基づき、建築学科教室より授与。戦後復興期において本学の設計教育の礎を築かれた建築家であり、かつ日本の建築文化に関する優れた論考を残された吉田鉄郎先生の業績を記念して命名された。駿建賞基金は、小林文次、宮川英二、近江米、小谷喬之助、木村翔、若色峰郎各先生の寄金による。

*4 大学院博士前期課程の環境系および設計・計画系の優れた研究論文および設計作品に対し、駿建賞基金に基づき、建築学教室より授与。駿建賞基金については*3参照。

*5 大学院博士前期課程の構造系分野の優れた研究論文に対し、駿橋賞基金に基づき、建築学科教室より授与。駿橋賞基金は、本岡順二郎、榎並昭各先生からの寄金を元に設立。構造系教授の寄金を追加。

*6 学部の優れた卒業研究論文および卒業設計作品に対し、校門建築会より授与。

*7 大学院博士前期課程の優れた研究論文および学部の優れた卒業設計作品に対し、理工

学部校友会からの寄金に基づき、建築学科教室より授与。

*8 学部の優れた卒業論文および卒業設計作品に対し、駿建賞基金に基づき、建築学科教室より授与。

*9 設計競技で優秀な成績を残した大学院博士前期課程の学生に対し、駿建賞基金に基づき、建築学科教室より授与。近江米先生の発案により設立。駿建賞基金については、*3参照。

*10 学業以外で社会的に活躍した学生に対し、理工学部校友会より授与。

*11 大学院不動産科学専攻専任教員の基金に、平成8年度で定年（平成10年3月1日死去）となられた佐藤進先生（元・専任教授）から寄せられた基金。平成11年度で定年となった浅香勝輔先生（元・専任教授）から寄せられた基金を加え、不動産科学専攻の優秀修士論文に贈られる。

*12 日本環境管理学会名誉会長木村宏先生（元・専任教授）から不動産科学専攻にその運営を委託された基金により、大学院不動産科学専攻の優秀修士論文に贈られる（平成7年度新設、旧・日本環境管理学会会長賞）。

*13 不動産科学専攻を創設し、理工学部長、日本大学総長・理事長を務められ、平成20年度で定年となった小嶋勝衛先生（元・専任教授）から寄せられた基金により、大学院不動産科学専攻の優秀修士論文に贈られる（平成21年度設置）。

平成23年度 博士論文 修士論文・設計 タイトル一覧

大学院博士後期課程

主査：岡田 章教授，副査：半貫敏夫名誉教授，中田善久教授，野村卓史教授（土木工学科）——— 建築学専攻
永井 佑季 ホルン型張力膜構造の風応答性状に着目した設計用風荷重に関する研究

大学院博士前期課程

井上勝夫教授 ————— 建築学専攻

井田 啓介 鉛直振動に対する床の振動性能評価に関する研究
金 舟 中国北京市における集合住宅の音環境性能に関する研究
阪本 一生 大断面集成材を用いた木造建築物の重量床衝撃音対策方法の検討
宮松 優行 住宅建築を中心とした騒音・振動に関連する訴訟の原因分析と解決策の提案

井上勝夫教授・橋本 修准教授 ————— 建築学専攻

岡田 芳明 隣接する対話空間におけるスピーチプライバシー保護のための相互サウンドマスキング法

井上勝夫教授・羽入敏樹(短大)准教授 ————— 建築学専攻

桐山 直己 減衰を除去したインパルス応答による室内音場の拡散性評価

安達俊夫教授 ————— 建築学専攻

朝枝 亮太 エネルギーの釣合に基づく液状化地盤の損傷評価に関する研究
東京湾岸における液状化被害の調査及び沈下量の評価

岡田 章教授 ————— 建築学専攻

赤星 博仁 ケーブルクランプ金物部の滑動を考慮したテンセグリック・タワーの地震時応答性状に関する基礎的研究
鍋木 雄太 アーチ状ビーム式空気膜構造のインフレート及びデフレート時の挙動に関する基礎的研究
工藤 智之 ハイブリッド平板構造の応力制御に関する基礎的研究 膜の変形を考慮した制御目標の決定手法の適用性について
久保山 武 応力制御部材の集合で形成された張力曲面形状構造の耐力と変形性能について
小宮 圭太 スtring補剛アーチの提案及び施工時の挙動に関する基礎的研究
曲げ材を有するString・トラスアーチについての検討
寺田 直人 木質ブロック積層壁の水平力に対する構造性能の基礎的研究
野本 圭祐 ハイブリッド・ガラス・ビームの構造部材への適用性に関する研究
ガラスパネルを埋め込んだテンショントラスの提案と評価
松田 歩弓 連結したホルン型張力膜構造の風応答性状に関する研究

白井伸明教授 ————— 建築学専攻

赤羽 正寛 エネルギーの釣合に基づく鋼構造筋違付骨組の地震応答予測
伊東 大地 FEM解析に基づく各種破壊モードを考慮したブレース補強RC骨組の復元力特性のモデル化
小野 泰弘 せん断荷重を受ける有孔薄肉H形断面梁の耐力評価とスリーブ管補強法の適用性
河井慎太郎 改良ファイバーモデルによる靱性部材と脆性部材が混在したRC造骨組の耐震性能評価
西尾 淳 実被害状況に基づく損傷スペクトルを用いた既存RC造建築物の耐震性能評価法
橋本 拓 水平2方向外乱を考慮した偏心RC構造物のねじれ挙動の評価

中田善久教授 ————— 建築学専攻

坂本 英之 せき板の転用によるコンクリート表面の品質変化とこれを考慮した目的指向型型枠工事計画の提案

古橋 剛教授 ————— 建築学専攻

郭 鈞桓 次世代構造物設計法に関する研究 特徴的な地震動に対する超高層構造物の制震設計

古橋 剛教授・秦 一平助教 _____ 建築学専攻

廣谷 直也 地盤特性を考慮した D.M. を用いた構造物の制震性能に関する基礎的研究

今村雅樹教授 _____ 建築学専攻

〈修士設計〉

赤津 成紀 京都公会館再生計画 市民利用を中心とした文化複合施設と広場の設計

加藤 昂士 都営青山北町アパート建替計画 都営団地の更新に伴う高齢者を中心とした住まいと生活支援施設の提案

根本 亮佑 横浜市根岸台米軍基地跡地利用計画

根岸競馬場一等地スタンド改修及び療養機能を内包した市民利用としての健康スポーツセンターの設計

茂木 香織 北区十条地域コミュニティセンター計画

地域密着型公共サービス拠点と密集市街地整備促進に向けた集合住宅の設計

横河 健教授 _____ 建築学専攻

黒田 紗矢 都市的視点からみた明治神宮「外苑」の計画的特徴に関する研究

〈修士設計〉

今野 和仁 丸の内 3.5 次地区更新計画 新東京ビル街区建て替え計画を活用した自立型業務都市の提案

神保 寿弥 小田原市お堀端通り商店街再編計画 出桁造りを用いたお堀端通り商店街沿道の修景及び交流学習施設の計画

瀬戸 基聡 都心部における高度利用化を応用した建築的広場の創出

神田錦町三丁目再開発をモデルとした広大オープンスペース及びタワーの一体的設計

中村 隆志 瀬戸内戦争歴史博物館構想 戦争遺跡群の活用による分散型平和拠点施設の設計

佐藤光彦教授 _____ 建築学専攻

〈修士設計〉

森本 栄貴 地方都市中心市街地における寺院境内の再構築

浄土真宗大谷派金沢別院境内をモデルとした学習・療養空間の設計

池上 晃司 銀座六丁目再開発計画 銀座における大型商業施設の在り方の提案

鈴木康二郎 地域教育施設の設計 船橋小学校建替え計画をケーススタディーとした社会教育施設と小学校の複合化

高橋 雄也 葛飾区立中青戸小学校の設計 小学校における総合学習空間の提案

田中麻未也 国立西洋美術館更新計画 現代における装飾を用いた建築の更新手法

土川菜々子 都市計画道路整備事業に伴う下北沢駅前構想計画 既存の都市空間を継承した複合建築の設計

山中 友希 産官学連携による八王子地域活性化計画 コミュニティの育成を目指した地域交流拠点施設の設計

佐藤光彦教授・山中新太郎助教 _____ 建築学専攻

〈修士設計〉

永嶋 竜一 教育校群「新千歳小学校」 2つの前期校と1つの後期校から構成される新しい小学校の計画

三平 奏子 船橋市本町4丁目をケーススタディとした平常時・災害時・復興時の地域デザイン

地域密着型複合施設の提案を中心として

本杉省三教授 _____ 建築学専攻

藤田 怜 待ち合い空間活用型劇場の研究

鈴木 大志 単身者向け事業体介在型シェア居住の実態に関する研究 共有空間での居住者間交流を中心として

益田 絢美 都市におけるパブリックアートの果たす役割に関する研究 東京都立川市を事例として

森田 有貴 景観形成のための建築デザイン協議・審議に関する研究

景観条例を持つ地方自治体における協議・審議内容及びその実効性に着目して

山本 崇嗣 住宅団地における空き住戸活用手法の研究 学生入居事業の事例を通して

〈修士設計〉

鎌谷 良 群棲型都市住居の計画 台東区清川における都営住宅建替え

八藤後 猛准教授 _____ 建築学専攻

土屋 貴子 公共施設におけるトイレ利用の実態と施設計画

長谷川友樹 街路づくりにおける見通しが及ぼす影響に関する研究 道路周辺環境が及ぼす心理的影響の評価

渡辺富雄准教授 建築学専攻

佐藤 高 図書館の来館者の利用特性と行為に関する研究 武蔵野プレイスをケーススタディとして

野村雄一郎 サッカースタジアムに関する基礎的研究 国内のクラス S の 12 のサッカースタジアムを事例として

本杉省三教授・宇杉和夫准教授 建築学専攻

丸史 明 西安市 1950 年代集合住宅の居住環境の継承について 中国居住地の持続的形式と発展に関する研究

本杉省三教授・佐藤慎也准教授 建築学専攻

西島 慧子 地域における舞台芸術環境の構築手法に関する研究 演劇制作・支援団体の活動を通じて

大川三雄教授 建築学専攻

清水 明 PAU 理論を中心とする建築家大高正人の都市・建築論に関する一考察

根上彰生教授・川島和彦専任講師 建築学専攻

川鍋 充範 路面電車利用者の中心商店街における回遊行動に関する研究

広島市における路面電車利用者の行動特性と中心商店街の空間構成に着目して

瀧津 徹平 公営住宅の集会所および空き住戸の活用が地域に及ぼす効果に関する研究 大阪府および大阪市の事例に着目して

岸井隆幸教授 不動産科学専攻

中林 俊輔 東京 23 区における屋上緑化のあり方に関する研究

根上彰生教授 不動産科学専攻

賀上 寛之 旧耐震マンションの耐震診断および改修の促進に関する研究

中国におけるリバース・モーゲージ制度導入に関する研究 高齢化社会の到来に備えて

東原 一樹 都市における冒険遊び場の普及方策に関する研究 東京都世田谷区・国分寺市・武蔵野市に着目して

三橋博巳教授 不動産科学専攻

兒玉秀一郎 被災者生活再建支援制度に関する研究

横内憲久教授・岡田智秀准教授 不動産科学専攻

福田 朗大 海の文化性を活用した大田区臨海部のまちづくりに関する研究

遠藤 克則 景観教育における支援体制の構築に関する研究

加藤 悠大 都市における水域の不動産的価値に関する研究 新型案件における水域の土地利用について

川島 正嵩 農村景観の持続に向けた風景観の継承に関する研究 岐阜県岩村町富田地区を対象として

谷口 博城 減築を用いた商店街活性化のための整備手法に関する研究

中島 誠仁 都心型漁業を核としたまちづくりに関する研究 首都圏 3000 万人漁師化計画の提案

横内憲久教授・岡田智秀准教授・押田佳子助教 不動産科学専攻

板里 卓哉 緑地景観保全・創出方策としての景観グリーンチェーン構築に関する研究

瀬畑 尚紘 歴史的観光都市「鎌倉」における「徒歩観光」構築に関する研究 「通り」の空間特性に着目して

宇於崎勝也准教授 不動産科学専攻

柏崎 修 建築協定の持続的な運用方法に関する研究 越谷市の建築協定地区の運用実態に着目して

水谷 亮 地域づくりに寄与する支援ツールの開発に関する研究 東京都中央区日本橋地域を対象として

森田 暁 社会基盤の近代化が繁華地区に与えた影響に関する研究

両大戦間の東京市神田区須田町・小川町の変容に着目して

平成23年度 卒業研究・設計 タイトル一覧

学部

池田耕一教授

- 石川 正人 洪水災害被災後の居住環境問題に関する調査研究
- 小野 和弘 特定建築物における室内環境と省エネルギーに関する研究
複数事務所ビルにおける温湿度および二酸化炭素濃度の実態把握
- 河野 友宣・渡邊 裕太
オフィス、会議室、ホテルからなる超高層複合施設のエネルギー消費量に関する研究
- 中島 章 高齢者福祉施設における空気環境の実測調査
- 萩原 健 室内空間における軽度の暑熱条件下でのクールビズ着用効果の検討
暑熱ストレス・ストレインの労働生理学的評価と予防対策の研究 その1
- 小林 隆秀 暑熱負担軽減方策に関する実験的研究の検討
暑熱ストレス・ストレインの労働生理学的評価と予防対策の研究 その2
- 濱 千夏 緑化壁の日射遮へい性能に関する研究
- 小川 貴大 建築物利用者の室内環境と健康に関するアンケート調査
- 黒川 愛季 応急仮設住宅におけるカビ汚染実態の調査
- 後藤 郁 気化式加湿による菌、臭気対策に関する研究 気化式加湿の殺菌方法に関する研究
- 金山 慶彦 放射性物質による環境汚染とその対策技術に関する研究



井上勝夫教授・富田隆太助教

- 伊藤 豪希・土田 龍弥
建築環境工学分野における紛争の判例分析と司法判断に関する考察
- 太田 竜嗣・相原裕太郎
保育園のクワイエットルームに関する実態調査
- 小川 雄太・田中 元規
乾式二重床における重量床衝撃音対策に関する研究
- 小島 成博・渡邊 直樹
中国における集合住宅の音環境性能意識調査及び性能実態調査
- 近藤 史生・富田奈央樹
都市の街並み景観に関する実験的研究
- 田畑 彰悟・真鍋 遼平
居住空間における人の行動特性と主観評価
- 玉置 祐人・淵崎 礼奈
衝撃振動を対象とした床版の測定および評価方法に関する検討
- 羽根田知美・福山 拓俊・依田 拓也
大断面集成材を用いた木造建築物の床衝撃音発生系の検討
- 福島 弘貴・本田 淳志・山口 大希
河川における流体音に関する実験的検討



橋本 修准教授

- 岩崎 和真・田中 真央・千葉 峻樹
パーソナルスペースと空間内の明るさ分布の関係性
明るさ分布のコントラストとシルエット現象の影響
- 茨木 大輔・藤宮 達朗
接した対話組間における相互サウンドマスキングの検討
方向性を持たせたサウンドマスキングによる対話相手とのプライバシー性の確保
- 櫻井 和也・吉川 萌
先行音効果を用いた音声誘導支援における複数スピーカの拡声条件に関する基礎的研究



菅原 隆晃・高師 啓佑・徳川 愛海

VDT 視作業時の光視環境の要因が心理的評価に与える影響

高橋 和幸・松本 浩平

帰業性の要因を伴う経路選択時における向光性の効果に関する研究

蜂巢浩生専任講師

栗原 広成・齋藤 量平・佐久間太基・堀合 駿希・大屋 聡寿・白倉 太郎

「実験動物施設の性能評価法」確立に向けた構成要素抽出の試み

田中 宏樹・逸見 秀幸

他動的運動訓練が高位頸髄損傷者の身体状況に及ぼす影響 体調管理日誌に記録された各項目との関連について

田中 淳也・井本 千樹

継続的運動トレーニングが脊髄損傷者の温熱生理反応に及ぼす影響について
3年間の測定結果に見る温熱生理反応の変化



安達俊夫教授・山田雅一准教授

有田 真弥・梶山 繁樹

安定処理土の弾性波速度システムの開発

石倉 実果

粘性土改良土の一軸圧縮強度の評価方法

工藤 諒太・矢部 智久

2011年東北地方太平洋沖地震による液状化被害調査 現行の液状化判定法の適用性

篠崎 良太

FEM解析による山留め挙動の評価に関する研究 ひずみ依存性を考慮した変形係数の設定方法

並木いつか

小型振動台実験における相似則の適用性の検討

沼尻 倫明

東日本大震災における東北地方の生活密着型施設の事業継続性に関する調査研究

藤森 圭祐

エネルギーの釣合に基づく液状化の沈下に関する研究
2011年東北地方太平洋沖地震の液状化調査及び予測法の適用性の検討

舟木友里花

地盤改良を適用したパイルド・ラフト基礎に関する研究 FEM解析による沈下量の低減に関する検討

森垣 大佳

2011年東北地方太平洋沖地震による液状化被害調査
首都圏における液状化被害状況と地震動の継続時間が液状化特性に与える影響

安河内翔平

エネルギーの釣合に基づく液状化の沈下に関する研究 規準化累積塑性ひずみエネルギーと体積ひずみの関係

吉田 理恵

地盤・基礎構造物の被害が公共施設の復旧に与える影響に関する研究 2004年新潟県中越地震による長岡市の事例

渡邊 俊治

粘性土改良土の強度・変形特性に関する研究 せん断強度と残留強度の評価

山下 哲平

2011年東北地方太平洋沖地震による液状化被害に関する研究 噴砂の粒度特性と液状化被害状況



岡田 章教授・宮里直也助教

足立 識文 いす型配座構造の屋根架構への適用性に関する基礎的研究

有路 亮平 立方体積層型ケーブルタワーの力学的性状に関する基礎的研究

岩見 京助 放射型ストリング式骨組架構 (SKELSION) の力学的特性に関する実験的研究

上松 幸平 六角形 Tensegric Truss の平板への適用に関する基礎的研究

大澤 壮 トラス材で形成された一葉双曲面形状柱の水平荷重時の耐力と変形性能について

小俣 智司 多ピン PS アーチの仮設建築への適用に関する研究 シリンダー型多ピン PS アーチの提案

総谷 友昭 連結した HP 曲面型張力膜構造の風荷重時の挙動に関する基礎的研究

北島幸之助 木ダボを用いて締結した木質ブロック積層壁の力学的性状の把握

黒瀬 優 膜材を組み込んだ六角形 Tensegric Truss の仮設建築への適用に関する基礎的研究

小島 上徳 Tensegric Truss (Type I) を用いた負圧空気膜構造の構造特性に関する研究

佐藤 紀紀 Reciprocal Frame を用いた切頂 20 面体ドームに関する研究 木質系材料の場合の接合方法の検討

下村 太郎 負圧二重空気膜構造の構造特性に関する基礎的研究

勝治 寛 木造軸組住宅における接合金物の安全性検証 接合具が及ぼす影響について

城一 祐樹 SENZ 型骨組膜構造の風圧力特性に関する基礎的研究



高岡 孝次	ガラスチューブを弦材として用いたトラス構造の提案と基本構造特性の把握
田中美菜子	HP 形状 2 方向ラチスシェルのテンション補剛に関する実験的研究
中村 和正	リングを用いた切頂 20 面体に関する基礎的研究 崩壊性状の実験的把握
畑野 遼	ガラスプリズムを用いたガラスビームの屋根架構への提案と基本的構造特性の検証
平野 哲也	ガラスを用いた集積構造の屋根架構への適用性に関する研究
柳瀬 仁志	ヘリカル・シザーズ構造の提案と実用性の検討 プリベンディング材を螺旋配置したシザーズ式アーチ構造について
川島 唯	プリベンディング部材を用いたハイブリッド張力膜構造の提案
小林 聡	張弦シザーズ構造によるドーム形状への適用に関する基礎的研究
篠崎 茉美	膜を使用したテンセグリティの仮設建築物の提案



白井伸明教授・田嶋和樹助教・石鍋雄一郎助手

井草 靖晃	損傷スペクトルを用いた RC 造建物の損傷評価手法 既存不適格建物に対する損傷手法の構築
石橋あゆみ	全体曲げ破壊する補強後 RC 骨組の梁要素解析モデルの構築および補強位置の検討
岩瀬 忠敏	耐力偏心を有する単層 RC 構造物の弾塑性ねじれ挙動の評価 (その 1) 解析モデルの構築及び静的解析結果
横川 匠	耐力偏心を有する単層 RC 構造物の弾塑性ねじれ挙動の評価 (その 2) 動的荷重下のねじれ挙動と BST 面による評価
宇賀 神駿	ブレース座屈を伴う RC 骨組の FEM 解析モデルの構築
長田 圭司	溶接軽量 H 型鋼梁のスリーブ管による貫通孔補強効果の解析的研究
岸野 高明	南極大陸ドームふじ観測基地の吹きだまり対策に関する実験的研究
小林 謙太	単層 S 造体育館を対象とした Is 値と地震応答特性 (その 1) 研究背景及び解析概要
田中 仁樹	単層 S 造体育館を対象とした Is 値と地震応答特性 (その 2) 解析結果
田邊 哲也	地震観測点近傍における東北地方太平洋沖地震の建物被害調査
山口 温子	靱性柱と脆性柱が混在する RC 造骨組の耐震性能に関する検討 (その 1) プッシュオーバー解析に基づく検討
荒井未菜美	靱性柱と脆性柱が混在する RC 造骨組の耐震性能に関する検討 (その 2) 地震応答解析に基づく検討
山根 康孝	極めて小さいシアスパンにおいてパンチングシア破壊する補強後 RC 骨組の FEM 解析
渡邊 大祐	線形破壊力学の応用による鋼材の靱性評価に関する研究
渡部 俊宗	3 次元 FEM およびファイバー解析を用いた既存 RC 造建物の耐震性能の検証 (その 1) プッシュオーバー解析による水平耐力の検討
片岡 美穂	3 次元 FEM およびファイバー解析を用いた既存 RC 造建物の耐震性能の検証 (その 2) 非構造壁の有無が地震応答に及ぼす影響
古川 正憲	既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震性能に関する研究 低強度コンクリートに関する研究



中田善久教授

芦川 雄郁	大規模地震による鋼製下地材を用いた在来工法天井の被害状況に関するアンケート調査
大辻 浩輔	コンクリート強度管理用供試体の違いが応力-ひずみ曲線に及ぼす影響
宮田 敦典	細骨材の表面水率の変動が高強度コンクリートの品質に及ぼす影響
秋山 良	吸水性状と調合分析に基づくコンクリート品質評価に関する研究
手島 基	植物繊維の左官モルタル補強材への利用に関する研究

古橋 剛教授・秦 一平助教

〈古橋ゼミ〉	
土田 堯章	偏心を有した構造物に対する D.M. を用いた応答制御手法の確立 その 1 1 層モデルにおけるねじれ応答の制御
弓削 貴史	偏心を有した構造物に対する D.M. を用いた応答制御手法の確立 その 2 多層モデルにおけるねじれ応答の制御
玉木 龍	制震構造物のエネルギー特性 その 1 時刻歴における減衰エネルギーの分離



藤田雄一郎	制震構造物のエネルギー特性 その2 エネルギーのモード分離法の提案
笠原 俊	高層建物の設計用長周期地震動について 2011.3.11 東北地方太平洋沖地震の観測記録による検討
登坂遼太郎	擬似モード制御システムにおける D.M. 量に対する性能把握 部分モード制御システムの提案
〈秦ゼミ〉	
阿部 裕一	大地震時における駿河台キャンパスの避難に関する研究 その1 東北地方太平洋沖地震による駿河台キャンパスの避難対応の検証と考察
加瀬真一郎	大地震時における駿河台キャンパスの避難に関する研究 その2 アンケート調査による安否確認システムの提案
石田 安澄	超高層免震建物の簡易設計法に関する基礎的研究 免震部材の引抜面圧を基準とした逆設計法
武田 哲平	東北地方太平洋沖地震によるつり天井の耐震性の検証と改修方法に関する研究 その1 1号館つり天井の被害状況及び実大振動実験
稲毛康二郎	東北地方太平洋沖地震によるつり天井の耐震性の検証と改修方法に関する研究 その2 粘弾性ゴムを用いたダンパーによる制震改修方法の検討
木村 武浩	制震装置を集中配置した制震構造物の応答性能に関する基礎的研究 その1 柔層化層に用いる弾塑性ダンパーと D.M. モード制御システムの組合せ検討
安松 哲生	制震装置を集中配置した制震構造物の応答性能に関する基礎的研究 その2 提案システムの解析検討と性能確認実験結果
齋藤 善張	非線形粘性ダンパーの初期減衰係数が応答に及ぼす影響について

今村雅樹教授

〈卒業設計〉

伊藤 舞	地の塔 北海道立図書館の設
岩田 大輝	都市景観の隙間
大堀 裕太	旧住空間再生 公団団地再生計画
栗田 健佑	隅田川の上で、浅草地域における諸問題の設計的解決方法
斎藤 大亮	SEVEN's Canvas 都内における公共建築のあり方
中西 祐介	アクティブな壁、クローズな壁 壁から生まれる新たな学校コミュニティー
野田 香織	HIGATA concealer 谷津干潟における新しい観察スペースの提案
芳我まり子	みんなの ONSEN 横浜市泉区いちょう団地における多分化共生地域センター計画
町田 昂弘	明滅都市 再開発の縁における街の境界のつくりかた
山本 匡希	混在都市連続体 都市と個人の間接項を目指して
和田 修平	渋谷駅周り開発における職住近接空間の集合体の提案



横河 健教授

〈卒業設計〉

蔵藤 勲	水辺のタペストリー 川を編み込んだ堤防建築
平野 淳也	市場開放 市場を拠点とした生活のコミュニティ化
孫 君如	青煉瓦の家 中国古都において住宅の保存と修復
武久 忠正	商品化住宅の解体と再構成 ライフサイクル・ライフスタイルに対応する組み替え可能な集合住宅
谷田 一平	PURE DOM-INO 銀座純折衷主義的商業建築
千綿 悠介	借り暮らしノ大家族 城下町都市佐賀のクリークを活用した職住の暮らしの再生
中山 将	PLATFORM
原 俊介	吾妻ターミナルブリッジ 吾妻橋における橋の観光化の提案
平野 悠哉	Othello 表裏の建築
梅林 稔弘	Cloud Rack 760



山崎誠子助教

市川 恵里	動物園におけるランドスケープイマージョンの現状と一考察
-------	-----------------------------



よこはま動物園ズーラシアにおけるケーススタディ

- 伊藤 由華 東京都・神奈川県・千葉県における推奨木に関する研究 都市の緑化への主要3都市の動き
大川 朱音 史跡名勝の公園化に関する研究
熊倉 拓 神田地区における街路景観の分析と評価に関する研究
清水稚奏子 港区の区立公園についての研究 都市公園法改正による公園計画の変化と現状
直嶋恵里沙 さいたま市浦和区の緑被率に関する研究
夏目 涼 医療建築におけるランドスケープの研究
宮沢 綾 港区における壁面緑化の現状の研究
米山 祐子 千葉県館山市の景観整備に関する研究 現状と今後の課題
飯岡 千明 微気候の研究 水田に囲まれた農家の環境
古瀬 司 災害復興のためのランドスケープの研究 ソーシャルランドスケープの提案

佐藤光彦教授

〈卒業設計〉

- 石森 祥太 都市型PA 後楽パーキングエリア 交わらない動線の新たな関係性
小笠原 隼 新工業都市
小野 可愛 CHEESE
佐藤 太輝 裏返る住宅地
丹下 幸太 transfiguration
塚越 望 mediate 小金井市庁舎移転計画に伴う複合庁舎の提案
豊田 玲奈 低層住宅□高層ビル 再開発の裏の計画
番屋 陽平 風景のパレード 賑わいが流れる浜町堀
矢野 卓馬 とあるお堀の物語
山本 尚史 21st Century Office : Domino System to Void System
VOIDによる均質空間の変容性を用いたオフィス空間の提案
藤本 陽介 佃島は浮かび上がる 水辺へ繋ぐストライプ



山中新太郎助教

- 小出 恵嗣 まちのオープンスペースにおける「たまり」に関する研究
日本大学理工学部駿河台校舎前及び千代田区道444号線を事例にして
齋藤 武 世紀末ウィーンにおける「装飾」に関する研究 アドルフ・ロースの建築を対象として
〈卒業設計〉
朝倉 亮 街門 僕達は何かを目指す 駅、或いは
亀井 一帆 軍艦島ミュージアム
杉本 将平 山手線図書館 鉄道の線路軌道が生む空間を利用した建築の提案
本宮 久隆 松山城三之丸史跡球技場計画
矢嶋 宏紀 超高層美術館 新たな東京のアート拠点となる、垂直方向に展開される美術館の提案
山本 成子 Roppongi Terminal
和田 智子 籠—こもり— 自己再構築のための水空間



本杉省三教授

- 青木 駿太 有料多目的レンタルスペースの利用実態に関する研究
天野 容平 美術館を拠点とした教育普及活動に関する調査研究 神奈川県内の美術館を対象として
安濃 一史 住まいにおけるこども室について ハウスメーカーが考える住まいの過去と現在
小野 梓 郊外地域における中心エレメントに関する研究
河合 誠人 子育てを終えた親から考えるこども室について



金原 巧 公共図書館の児童部門における利用実態について 北区立中央図書館を事例として
 田村 想 公共図書館における学習室利用の実態とあり方について 墨田区立あずま図書館を事例として
 横田 祐治 日本大学理工学部駿河台図書館の改善点について学生の視点で考える
 平山 詠梨 分譲団地のリフォーム実態調査からみた建替え・修繕・改修に関する調査研究
 成田ニュータウン分譲住宅団地アンケート調査から

〈卒業設計〉

柳 皓成 connecting scene 防火建築帯建替におけるヴォリューム分散配置型複合施設の提案
 山崎 周拓 オモヤとハナレとコリドール

佐藤慎也准教授



籾 景美 公立美術館の設立趣旨に関する研究
 大橋 麻紀 もの派の研究 環境の意識に着目して
 島田 遥 現代美術館の展示空間構成に関する研究
 鈴木 薫 映画編集に関する研究 空間と時間による視覚的表現に着目して
 塔尾 洋一 情報化社会における哲学と倫理 現代の建築論の模索
 長尾 芽生 アートボランティアに関する研究 アートプロジェクトにおける活動を中心として
 福田 朱根 現代におけるコミュニティデザインに関する研究 studio-Lの活動を通して
 堀木 彩乃 商業施設におけるイベントスペースに関する研究
 堀切梨奈子 まちなかにおける芸術活動に関する研究 場の利用と参加態度を通して

八藤後 猛准教授



伊東 清音 子どもの危険回避能力と生活体験に関する研究 建築安全計画のための基礎的研究
 伊藤 理紗 温泉施設の快適性について
 大沼奈津美 子連れ外食における飲食店の利用しやすさに関する研究
 川上 玲奈・蓮澤美沙希 節電時におけるの駅の計画 視覚障害者のためのバリアフリー
 坂田 直輝 ドアの指はさみ事故防止に関する研究
 渋谷 鎌磨 男女が働きやすい保育所職員空間に関する研究 男性保育士の増加に適応する保育所
 清水 信貴 住宅における子ども用階段手すりの基準に関する研究
 堤 真吾 新宿駅における乗換と周辺地域への移動を円滑化するためのルートマップ作成に関する研究
 手塚 啓介 色彩計画に配慮した戸建て住宅の提案 視覚障害者の視点から
 具志堅いづみ 公共の歩行者空間の安全に関する研究 視覚障害者、知的障害者の外出支援のあり方
 能勢 摩耶 精神障害者グループホーム居住者の住宅性能に対する意識調査 川崎市内におけるグループホームを対象として

渡辺富雄准教授



荒木 千陽 茨城県の高齢者専用賃貸住宅の実態調査と県営ひばりアパートの改修計画の提案
 大島 由貴 外遊びにおける異年齢交流の発生場所と遊び行為の関係性に関する研究
 横浜市の認定こども園を事例として
 奥村 健 廃校に伴う中学校校舎の用途転用に関する研究 東京都区部の公立中学校9事例を通して
 河合 雅由 コレクティブハウジングの基礎的研究 NPO コレクティブハウジング社の事例を通して
 坂本亜沙未 図書館スタッフから見た事務系諸室の空間構成の評価に関する研究
 区立千代田図書館、区立葛飾中央図書館、武蔵野プレイスをを通して
 佐々木彩香 こどもの遊び行為と空間に関する研究 異なる遊び空間での観察調査からみた考察
 駿藤 伊織 盲導犬訓練施設の機能と計画に関する研究 日本国内の12施設の事例調査研究を通して
 中山 満 図書館利用者の属性と行為からみた場所選択に関する研究
 武蔵野プレイス、葛飾中央図書館、千代田図書館を事例として
 波多野真一 小規模多機能居宅介護施設の利用者特性と利用圏に関する研究 東京都練馬区の事業所を事例として

三壁 祐哉 施設一体型小中一貫校における学年配置と教室ユニットの平面構成
学校建築の雑誌「School Amenity」過去5年分に掲載された事例を通して

〈卒業設計〉

中田 光 COMM:RIPPLES 郊外での公共空間を備えた図書館の設計
原 祐典 台東区役所の設計 庁舎建築の在り方について考える

宇杉和夫准教授

井町 順文 東北地方における津波に対する神社の避難場所の機能の分析 宮古市の海岸付近の神社を事例として
清水 遼 東日本大震災から見る持続的地域コミュニティについての研究
宮古市における仮居住形式の変遷の把握
田島 雄一 震災復興仮居住におけるコミュニティの役割 双葉町借上げ住宅を事例として
平岡 昭 岩手県宮古市の地域固有の資産を活かした復興まちづくりの提案
三陸海岸における観光拠点としての鯉ヶ崎の位置付け
平野 祐樹 見沼たんぼの市民農園の実態と地域農産業活性化についての研究 実態調査を中心として
安永 直哉 見沼たんぼの市民農園の実態と地域農産業活性化についての研究 意向調査から見る見沼たんぼ
遠藤 洋平 ヤマ路地ムラ路地再生による復興計画支援 岩手県宮古市を例にした路地空間の再編



大川三雄教授・重枝 豊教授・小島陽子助手

〈大川研究室〉

安樂 駿作 建築家・葛西萬司の建築観と設計活動にみる特徴
里井 レミ 『暮らしの手帖』(1948-1969)にみる住宅関連記事の変遷と特徴に関する研究 建築界の動向との比較
篠原 通宏 佐野利器の復興建築論にみる「共同建築」の理念とその実践に関する研究
復興建築助成株式会社を活動を中心として
友田 雄俊 建築家 佐藤功一の住宅観とその変遷に関する研究 著作と論稿を通じた史的分析
間瀬 朋美 インフラ整備の変遷にみるバロック都市ローマの形成過程に関する考察
川崎 圭祐 建築家・C.F.A. ヴォイジエの住宅作品にみる伝統表現の推移 伝統性に依拠した設計思想を通して
武知 俊貴 ロシアアヴァンギャルドにおけるヤコフ・チェルニホフの著書の特徴と意義に関する考察

〈重枝研究室〉

加藤 千晶 長谷寺本堂建地割図を用いた本堂計画意図の解明に関する研究
江戸時代初期再建社寺建築の計画手法に関する一考察
服部 知彰 密教建築にみる多宝塔の平面構成の特徴に関する一考察 上・下重平面や各部寸法の類別を中心として
丸山 麻美 導入期と完成期における禅宗様建築の細部寸法決定手法に関する一考察
方3間裳階付き仏殿の柱間寸法を中心とした寸法構成について
菱谷美菜子 大仏様意匠を用いた建築の平面・断面における寸法構成に関する一考察
大仏様の空間構成が後世の建築に与えた影響について
富田進太郎 諏訪大社上社本宮の伽藍変遷に関する一考察 江戸再興期を中心とした社殿の変遷について



三橋博巳教授

岡安 俊樹 大型商業施設の出店と商店街への影響 加須市商店街について
尾崎 俊介 木造住宅密集地域の避難に関する研究 東京都大田区を対象として
小野 拓実 自転車利用促進における道路整備に関する研究 神奈川県茅ヶ崎市駅前を事例として
加藤 大吾 重要伝統的建造物群保存地区における建築意匠の形成過程 埼玉県川越市川越一番街を対象として
今野 僚 地方自治体施設の公共FMの導入に関する研究 東京都の事例について
名越 優貴・横上 昌宏 東京都23区の賃貸マンションにおける価格の研究 山手線沿線について
森 春樹 伊豆市のウェルネス事業と活性化に関する研究 TO-JIプログラムについて
陸田 真菜 土壌汚染地の土地利用に関する研究 工場跡地を事例として



- 井上 裕也 公共施設のバリアフリー化の実態に関する研究 千葉県公立高等学校と駅を対象として
 播磨 秀幸 英国の中古住宅流通に関する研究 日本と英国の比較
 市原 恵太 首都直下型地震における防災対策に関する研究 東京都を対象にして

根上彰生教授

- 小野寺 匠・後藤 俊・田村 太一
 優先的に沿道建築物耐震化を促進すべき避難経路の選定に関する研究
 加藤 優基・桜井 澄・楠木 堅曹
 駅前空間の機能分析と総合評価に関する研究



宇於崎勝也准教授

- 秋田 容子・舟木真奈花
 鉄道高架下空間の利用と建物用途に関する研究 高架下における空間構成要素に着目して
 安喰 大智・角舘 義一
 坂道空間の要素分析とその評価に関する研究 坂道空間の見上げ景観と見下ろし景観の違い
 今泉 裕貴・小山田佳史・桂林 太一
 東京近郊の駅前商店街の実態に関する研究 市川駅、本八幡駅周辺を事例として
 海野 友弘・小幡 卓史・飛田 裕也
 一体型土地区画整理事業による市街地の形成に関する研究 つくばエクスプレス沿線を事例に
 岡田 安弘・富樫 尚仁
 自転車通行環境整備モデル地区の整備実態に関する研究 関東地方21地区を対象として



川島和彦専任講師

- 岡長 周平・幸田 崇
 東京都における既存建物を活用した有料老人ホームの供給に関する研究
 その1. 既存建物を活用した有料老人ホームの実態
 その2. 有料老人ホーム設置運営指導指針の改定の提案
 下山 亮・連石 雄大
 金沢市における伝統的産業の担い手による歴史的建造物の活用に向けた取り組みの実態に関する研究
 その1. 担い手育成および歴史的建造物の活用の取り組みとその実績
 その2. 担い手による活用経緯および活用における課題の分析
 鈴木 貴博・早瀬 悠真・水野 秀亮
 地方都市における高齢者向け公営住宅を拠点とした地域活動の活性化に関する研究
 その1. 先進事例5施設における取り組みの実態
 その2. 熊本県宮健軍団地を対象とした拠点整備および団地内高齢者の参加実態
 その3. 周辺地域にサブ拠点を展開することによる効果の分析
 高橋 祥太
 「産業観光」の連携体制における中核的推進組織の役割に関する研究
 群馬県桐生市における産業遺産にかかわる組織間の関係に着目して
 山中 沙智
 広域連携による歴史的建造物の活用の展開に関する研究 神奈川県相模湾沿岸地域を対象として
 岡部 佳代
 台北市饒河街観光夜市の整備の変遷と利用実態に関する研究 屋台・騎樓・店舗の関係に着目して
 米山 隆晃
 地方都市におけるまちなか居住推進のための空き家情報提供制度に関する研究
 まちなか居住を目指した関連する取り組みとの関係に着目して



横内憲久教授

- 浅賀 真治
 減築を用いた商店街活性化のための整備手法に関する研究
 商業施設「wazawaza」にみる減築の有用点
 大久保慎之介・中藤 元希
 水上交通を核とした広域的な地域活性化に関する研究
 (その1) 新町地区における遊覧船に着目して
 (その2) 地域間をつなぐ水上交通の有用性について



- 大村 倫平 都市における水域の不動産的価値に関する研究 水域の土地の利用における評価項目について
- 河口 怜史 コンパクトシティ政策促進の方策に関する研究 自治体から捉えたコンパクトシティ政策の課題
- 河野 琢磨 港湾機能再編における「みなとまちづくり」に関する研究 静岡県清水港日の出地区における地域資源の抽出
- 佐波 敏英 都心型漁業を核としたまちづくりの提案 社会実験からみる大田区「漁業」の位置づけ
- 前原 裕美 震災復興における「地域の記憶」の継承に関する研究 塩竈湾臨港地域における「地域の記憶」の把握
- 松坂 超 都市における寺社空間の保全に関する研究 切絵図・古地図・現代地図からみる寺社面積の変遷について
- 加藤 智也 景観教育における支援体制の構築に関する研究 「景観まちづくり学習」協働実施校における教育計画に着目して

吉野泰子(短大)教授

- 荒井 秀明 素材にふれて考える住まいの住環境教育に向けた取り組み
模型キットと緑のカーテンによる涼房効果
- 有林 裕輔 住宅・建築物省 CO₂ 先導事業マンションの環境設計 その2. 夜間冷気導入による CO₂ 削減効果の検証
- 篠塚 寛明 重要文化財のバッファゾーン設定に向けた実践的法整備に関する検討
その1. ビルの高さと樹木がビル風に及ぼす影響
- 清水 貴太 住宅・建築物省 CO₂ 先導事業マンションの環境設計 その1. パッシブ手法導入による H.I.P の低減効果
- 樋口 智文 重要文化財のバッファゾーン設定に向けた実践的法整備に関する検討
その2. 韓国文化財保護法の翻訳と具体的法制度への試み



黒木二三夫(短大)教授

- 堀川 史也 テンセグリティによる施設園芸農業架構の提案
- 櫻井 陽子 POV-RAY による膜構造建築のビジュアル化 雪氷構造物の実現に向けて



下村幸男(短大)教授・酒匂教明(短大)専任講師

- 真瀬 貴成 摩擦音を利用したスウェーデン式サウンディング試験に関する研究
その1 フィールド測定に適用可能な試験機の改良
- 新中 義彦 摩擦音を利用したスウェーデン式サウンディング試験に関する研究
その2 フィールド実験の結果
- 大羅 将・奈良 準也 RC 造学校建築の耐震補強前後の常時微動の変動に関する基礎的研究
- 片岡 翔太・倉島 貴昭 摩擦音に着目した土質判定を可能にするスウェーデン式サウンディング試験に関する研究
中間土を対象とした模型地盤による検討及びフィールド実験結果
- 吉沢 逸朗 震災瓦礫を用いた減衰地盤材料による嵩上げ造成地盤の動特性に関する基礎的研究



小石川正男(短大)教授・田所辰之助(短大)准教授・矢代眞己(短大)准教授

〈卒業設計〉

- 鎌田 暢 月島リボン つきしまのかこ・いま・みらいを紡ぐ7つの結び目



平成23年度 短期大学部 卒業生一覧

芦達 記英	桐生この夢	角川 将基	藤田 康平
阿部 紘樹	隈部 真司	椿 礼	宮田あゆみ
安西沙保里	小林 周平	富田 赴成	武川 将之
池田 知史	小林 幸弘	中込 慎也	森下 雄亮
伊佐康太郎	櫻井 晃平	中澤 拓海	矢代麻佑子
伊藤 彦太	澤頭 俊平	中島 伊織	山内 玲美
伊藤 壮祐	島野 高史	鳴田 健志	山田 航平
伊藤智香子	清水 悠生	難波 豪生	山本 健太
岩本 桃果	鈴木 健明	西 愛里子	若櫻 茄菜
江原 一晃	高安 結子	二峰万理江	若杉 健太
岡本 恭明	田久保 匡	仁平 広志	庄司 綾
鹿志村麻紀	田島 麻衣	蓮澤紳之介	清水 葉月
金井 美保	田中 陽平	羽鳥 愛美	長谷川良太
金子 顕	谷村安歌理	原島 和	藁科文美繪
金坂 裕之	土屋慧利子	平岡 恵利	

研究室所在一覧

駿河台校舎

5号館

3 F 建築学科コンピュータ演習室 (534室)
 4 F 建築教室事務室 (栗原・矢萩 542室)
 5 F 設計講師室 (末岡・西脇 553室)
 6 F 対震構造研究室
 (古橋 564A室・秦 564B室)
 地盤基礎研究室
 (安達 565A室・山田 565B室)
 材料施工研究室 (中田(善) 566A室)
 RC構造研究室
 (白井 567A室・田嶋 567B室)
 構造研究室 (金田・神田・廣石 568A室)
 構造研究室 (石鍋 568B室)
 空間構造デザイン研究室
 (岡田 569B室・宮里 569A室)
 7 F 建築史・建築論研究室 (大川 576A室・
 重枝 575A室・河合 575B室)
 環境研究室 (渡邊 577A室)
 建築環境・設備研究室 (池田 577B室)
 蜂巢研究室 (蜂巢 578A室)

橋本研究室 (橋本 578B室)
 建築音響研究室
 (井上 579B室・富田 579A室)
 8 F 渡辺研究室 (渡辺 584A室)
 建築設計系研究室 (山本 584B室)
 八藤後研究室 (八藤後 585A室)
 建築計画系研究室 (中田(弾) 585B室)
 本杉研究室 (本杉 586A室)
 佐藤慎也研究室 (佐藤(慎) 586B室)
 山崎研究室 (山崎 587A室)
 横河研究室 (横河 587B室)
 佐藤光彦研究室 (佐藤(光) 588A室)
 山中研究室 (山中 588B室)
 今村研究室 (今村 589B室)
 9 F 都市・地域デザイン系研究室(川島 594A室)
 都市計画研究室
 (根上 595A室・宇於崎 595B室)
 ウォーターフロント計画研究室
 (横内 596B室)

船橋校舎

5号館

4 F 吉野研究室 (吉野 545A室)
 田所研究室 (田所 545B室)
 矢代研究室 (矢代 546A室)
 小石川研究室 (小石川・高田 546B室)

6号館

2 F 羽入研究室 (羽入・星 622A室)

9号館

1 F (短)建設事務室 (保坂 915室)
 2 F 黒木研究室 (黒木 921B室)
 酒匂研究室 (酒匂 926A室)
 佐藤研究室 (佐藤 926B室)
 下村研究室 (下村 926C室)

新任教員紹介

神田 順 先生

(特任教授・構造設計)



略歴

1970年 東京大学工学部建築学科卒業
1972～80年 竹中工務店
1979年 エディンバラ大学 PhD
1980年 東京大学工学部助教授（'96年教授）
1999年 東京大学新領域創成科学研究科教授

建築を選択したのは、大学2年生のときです。構造設計に興味をもち、風洞実験をテーマに修士課程を終えて技術者として実務に従事したのですが、縁あって大学に戻り、教育・研究の時間を重ねてきました。風荷重と地震荷重を考えるうちに設計荷重としての確率論的な枠組みが面白くなり、限界状態設計法について建築学会でも活動しました。

東京大学が柏に新しいキャンパスを作り、環境学の創成を議論するようになって、構造安全をどう考えるか、基準の意味は何かなど、基本を考えることの大切さを意識するようになりました。この度は、また新しい環境を与えていただきました。講義を通して、学生諸君と建築構造の魅力や社会にとっての大切さを、ともに考えていきたいと思います。 (かんだじゅん)

河合晴香 先生

(助手)



略歴

2008年 日本大学理工学部建築学科卒業
2010年 日本大学大学院理工学研究科建築学専攻博士前期課程修了（建築史・建築論研究室）
2011年 世田谷区教育委員会民家園係文化財資料調査員

この春より建築学科の助手を務めさせていただくことになりました河合晴香です。建築に興味をもったきっかけが奈良京都の古建築であったことから、在学中は建築史・建築論研究室で日本建築史を学びました。研究室では、重枝先生、片桐先生、大川先生、諸先輩方からご教示いただきながら古建築の魅力を学び、とくに関西研修旅行では文化財の修復現場見学で職人の手により建築が甦っていくことに感動しました。

卒業後は茅葺きボランティアや建築の実測調査などを経験し、昨年度は世田谷区の民家園にて、調査員として古民家の維持・管理、施設運営の業務に携わりました。

経験も浅く未熟ではありますが、先生方をはじめ皆さんのお役に立てるよう、努力をいたします。どうぞよろしく願いいたします。 (かわいはるか)

中田 弾 先生
(助手)



略歴

2004年 日本大学理工学部建築学科卒業
2006年 日本大学大学院理工学研究科建築学専攻博士前期課程修了(野村・八藤後研究室)
2006～07年 スターツCAM(株)
2007年 (株)ウィーブ
2007～12年 一般社団法人千代田区観光協会
2009～12年 早稲田大学人間科学部教育コーチ
2011年～ D&A Networks代表

今春より、建築学科の助手を務めさせていただくことになりました中田弾です。私は本大学院の野村・八藤後研究室修了後、木造集合住宅の企画設計、顧客情報管理システムやホームページの開発、観光業によるまちづくり、NPOの立ち上げなど、さまざまな仕事を経験しました。また、早稲田大学の教育コーチでは、担当教員とともに環境心理学における卒業論文の指導も行いました。現在は、大学在学中から継続して行ってきた地域活動が仕事にもなっています。

これまで建築分野以外でもさまざまな経験をしてきました。その経験を活かしながら皆さんとともに学び、また皆さんのお役に立てればと思います。よろしくお願いたします。学外での地域活動に興味ある人もぜひ声をかけてください。
(なかだだん)

末岡佐江子 先生
(助手)



略歴

2001年 日本大学理工学部建築学科卒業(高宮研究室)
2003年 日本大学大学院理工学研究科建築学専攻博士前期課程修了
2003年 渡辺明設計事務所
2006～08年 日本大学理工学部建築学科助手
2008年 計画・設計工房

今春から3年間助手をさせていただくことになりました。再任のため2度目となりますが、皆さんのお役に立てるよう頑張りたいと思います。主に、建築設計の補佐をさせていただきませんが、4学年合わせるとかなりの人数の学生とかかわることになります。そのため、なかなか細かなケアは難しくなってしまうのですが、できるだけ多くの学生の皆さんと話ができるよう心がけたいと思っています。

設計の授業に関して、何か困ったことや聞きたいことがありましたら、設計製図講師室までお越しくください。
(すえおかさえこ)

渡邊ちひろ 先生
(助手)



略歴

2006年 日本大学生物資源科学部食品科学工学科卒業
2006～10年 三井物産(株)

この春より理工学部建築学科にて助手をさせていただくことになりました渡邊ちひろです。

大学を卒業後、総合商社に約5年勤めておりました。在学中は食品科学工学を勉強しており、建築という分野は新たな領域でのチャレンジとなります。授業のサポートをしながら皆さんと一緒にいろいろなことを経験し、成長していきたいと思っています。

大学にあらためて籍を置くにあたり、先生方や熱意ある学生さんたちとの出会いを楽しみにしております。

未熟者ですが一生懸命頑張りますのでどうぞよろしくお願いたします。
(わたなべちひろ)

■横河健教授の「杉浦邸／多面体 岐阜ひがるの」が、「日本建築家協会賞」（主催：日本建築家協会）を受賞した。また、「日本建築家協会優秀建築選2011」に、横河健教授「杉浦邸」、今村雅樹教授、今川憲英氏の「石田眼科」、佐藤慎也准教授、古澤大輔非常勤講師、馬場兼伸氏、黒川泰孝氏の「3331 Arts Chiyoda」、山中新太郎助教、鈴木俊作氏の「日本大学理工学部船橋キャンパス新サークル棟」、高宮眞介非常勤講師、大貫東彦氏、三谷徹氏「村山市総合文化複合施設・甞葉プラザ」が選ばれた。

■山中新太郎助教、鈴木俊作氏の「日本大学理工学部船橋キャンパス新サークル棟」が、「日本建築士会連合会賞 景観の部奨励賞」（主催：日本建築士会連合会）、「千葉県建築文化賞」（主催：千葉県）を受賞した。

■「日本建築学会 作品選集2012」に、丸子淳氏、金田勝徳特任教授の「ステップテラスの家」、横河健教授の「杉浦邸」、佐藤慎也准教授、古澤大輔非常勤講師他の「3331 Arts Chiyoda」、山中新太郎助教、今村雅樹教授他の「日本大学理工学部船橋キャンパス新サークル棟」、伊藤博之非常勤講師の「サクラノキテラス」が掲載された。

■四元仁美さん、落合俊行君、高野和哉君（3年）、飯名悠生君（2年）の「一色の床達」が、「HAYAMA ISSHIKI Beach house 2012 Summer Competition」（主催：SNACKS）の〈設計部門〉で採用案に選ばれた。これは2012年の夏に、神奈川県三浦郡葉山町の一式海岸に建つ海の家に対し、設計、グラフィック・ウェブデザイン、運営アイデアへの提案が求められたもの。これから実際の建設に向けた作業が行われる。完成作品は今後の「駿建」にて紹介予定（表紙参照）。

教室ぶろむな一ど

■佐藤光彦研究室が、「八幡浜港地域交流拠点施設トイレ棟デザイン設計協議 優秀作品」（主催：八幡浜市）を受賞した。四国の西の玄関である八幡浜港において、賑わいと憩いのある空間づくりを行うために整備される地域交流拠点施設に伴い、設置されるトイレ棟への提案が求められ、258点の応募から一次審査通過5点に選ばれた。

■山本匡希君、斎藤大亮君、町田昂弘君（今村研 M1）の「呼吸する小屋」が、「学生のための住宅デザインコンペティション入賞」（主催：公益財団法人トステム建材産業振興財団）を受賞した。東日本大震災復興支援イベント「大樹町 メム サミット」の一環として、「新しい家」をテーマに、震災後の新しい時代にふさわしい家への提案が求められ、77点の応募から一次審査通過5点に選ばれた。最優秀賞案は北海道大樹町に実際に建設される。

■永井佑季氏（11年博士課程修了）、岡田章教授、神田亮生産工学部教授、宮里直也助教、斎藤公男名誉教授連名の原著論文「独立したホルン型張力膜構造の風応答性状に関する研究」が日本建築学会構造系論文集 No.672（2012年2月号）に掲載された。

■平成23年度の卒業式が3月25日に挙行された。卒業生・修了生は、建築学科304名（9月卒業8名含む）、大学院建築学専攻博士前期課程57名、同後期課程1名、同不動産科学専攻博士前期課程16名、短大建築学専攻59名（9月卒業2名含む）であった。

■三橋博巳教授、宇杉和夫准教授、王岩助手、小島陽子助手が3月31日をもって退職された。長い間ありがとうございました。

■4月1日付の人事で、川島和彦専任講師、蜂巣浩生専任講師が准教授に昇格された。

■4月1日付で建築学科に神田順特任教授、福田富一客員教授が着任した。

■4月1日付で新しく建築学科のメンバーになったのは、河合晴香助手、中田弾助手、末岡佐江子助手、渡邊ちひろ助手である。

■建築学科、大学院建築学専攻の非常勤講師の新旧交代は以下の通り（敬称略）。〈新任〉

赤松佳珠子（建築デザインⅠ）
伊藤 博之（建築設計Ⅰ、Ⅱ）
宇杉 和夫（建築設計Ⅲ）
鹿内 健（デザイン基礎、建築設計Ⅰ）
塚田 修大（デザイン基礎、建築設計Ⅰ）
宮坂 知明（建築設計Ⅰ、Ⅱ）
関野 宏行（建築設計Ⅳ）
野田 誠（不動産経営）
三橋 博巳（防災計画、荷重・安全特論 他）
〈退任〉

伊藤 朱子（建築設計Ⅱ）
川上 英一（行政法規）
澁井 和夫（不動産経営）
高橋 真（建築設計Ⅱ、設計演習Ⅲ）
竹内 申一（建築設計Ⅳ、建築設計演習 他）
富永 祥子（建築設計Ⅳ、Ⅴ）
中山 優（鉄筋コンクリート構造Ⅱ）
西沢 大良（建築デザインⅠ）
飛田 幸作（建築設計Ⅲ、Ⅳ）

■短大建築・生活デザイン学科の非常勤講師の新旧交代は以下の通り（敬称略）。〈新任〉

岡山 理香（美術・デザイン史）
島森 功（色彩計画）
南 幹子（造形デザイン演習）
横村 隆子（建築デザインスタジオⅠ 他）
〈退任〉

中山 優（鉄筋コンクリート構造 他）
光嶋 裕介（建築デザインⅠ 他）
森田 吉晃（建築測量学）

駿建目次

2012年4月号 Vol.40 No.1 通巻168号

表紙「一色の床達」

設計：Archimans（四元仁美＋落合俊行＋高野和哉＋飯名悠生）

教訓Ⅰ	2
平成24年度 建築学科 履修要項	3
建築学科 専門科目使用教科書並びに参考書	12
平成24年度 短期大学部	
建築・生活デザイン学科 履修要項	15
短期大学部建築・生活デザイン学科	
専門科目使用教科書並びに参考書	17
平成23年度 各賞受賞者一覧	19

平成23年度	
博士論文 修士論文・設計 タイトル一覧	21
平成23年度 卒業研究・設計 タイトル一覧	24
平成23年度 短期大学部 卒業生一覧	33
研究室所在一覧	33
新任教員紹介	34
教室ぶろむな一ど	36

『駿建』 発行者：岡田 章：千代田区神田駿河台1-8-14 日本大学理工学部建築学科教室 Tel.03(3259)0724 <http://www.arch.cst.nihon-u.ac.jp/>

編集委員：佐藤慎也・橋本 修・川島和彦・田嶋和樹・山崎誠子・羽入敏樹・高田康史

印刷：奥村印刷㈱